

長崎県黒崎におけるキリシタンのオラショ

野村, 暢清

<https://doi.org/10.15017/2328730>

出版情報 : 哲學年報. 28, pp.261-328, 1969-08-30. 九州大学文学部
バージョン :
権利関係 :



長崎県黒崎におけるキリシタンのオラシヨ

野 村 暢 清

すべての事象は、無数の分析断面をもつ。このオラシヨ群も、どのような局面からでも、これを取り扱うことが出来る。しかし、今、私はこれを基本資料の形で敘述しようとする。出来るだけ無色な形で提出しようとしているのである。とはいえ、研究者はある分析断面の上になつてのみ、ものごとくに処しうることも事実である。そこで、先づ、私の、このオラシヨ群の取り扱い方、及び、その若干の特徴について述べておく。

(一)

現在、私は、宗教的統合に関する研究を進めている。その断面の中で、このオラシヨ群をも取り扱おうとしている。宗教現象研究の key concept として、私は、意味づけ interpretation 内調整 inner adjustment 宗教的統合 religious integration の概念を考えている。このような理論的諸問題には、今は、言及しないが、これらの理論的諸問題への experimental situation として、黒崎のキリシタン、カトリック、出雲の憑物現象、また東北、信州

にひろがる山への信仰を取り扱っている。

今、ここでは、宗教的統合の性格を明かにしていく一過程として、黒崎のオラシヨの問題を考えていく。

宗教的統合の性格は、^(註)sorokin の意味的統合に近い。

宗教を共有することは、他の文化因子を共有することとは異なる。宗教の境が文化の境と一致している場合、宗教の共有は、文化の核的なものの共有を意味する。基本的事物把握様式の共有、意味づけの共有を意味する。そして、この意味づけの Pattern は集団的なものであるが、この意味づけ機能の働く具体的単位は、個人の人格構造の中に於いてである。

宗教現象は個人の心の問題でもあり、また集団的問題でもある。その集団的断面にのみ重点をおいた抽象段階で、これを捉えることも出来るし、個人にのみ視点を置いて、これを、捉えることも出来る。しかし、宗教学としては、この事象の分析に際して、この両断面を含んで捉えることが望まれる。個の中の動きを無視した全体断面のみでの観察も空疎であり、全体を無視して、個の中でのもののみを取り扱う approach も誤りに導く。

宗教的統合に関する研究は、個の人格構造の中に於ける宗教の機能の姿の理解の上に立って行われねばならない。宗教的統合は、他の統合とは異なる。

宗教集団では、人々が同じ基本的人格構造をもつことが望まれ、またもっと考えられている。宗教的指導者も、末端のものも、一義的には、同じものをもつべきであると考えられている。同じ宗教の意味づけ、生活が要求されている。他の統合体の場合、指導者には指導者としての特殊なものが、強く要求され、異質性が重要因子である。ここで

は、基本的には同質的なものが要求されている。同じ事物把握、意味づけ方、同じ生活の仕方、感じ方をすべきであると考えられている。一人の人格に従い、做うことが求められている。イエスの如き、パウロの如き姿においてあること、仏陀の如き姿においてあることが求められている。このパウロに、仏陀に做うことが、指導者でも、末端でも求められている。同質化への要求があつて、異質的なものは、中核的なものとしては、要求されてはいない。

近代化は、部分の特殊化を含んでいる。differentiation の度合の増すことである。同質的なものを含む体系よりも differentiate したものを多く含む体系は、より複雑化し、展開した体系である。Weber がプロテスタンティズムの倫理で描いた処は differentiate した世俗的労働に宗教的意義を認める方向であつた。処でこの世俗的専門化を認めるプロテスタンティズムは、カトリックよりも宗教的同質性を求めるものであつた。勿論カトリックに於いても等質性は求められている。パウロに、フランスに做うことが求められている。しかし、プロテスタンティズムは、より等質的なものを求めている。カトリックは、裏としてではあつても、一般信徒、司祭、修道士、司教、法皇等の教会内役割りの異りを承認している。これに対し、プロテスタントは万人の神の前での平等をより強く主張する。同じプロテスタンティズムに分類されるものの中でも radical なもの程、その等質性への要求は高い。概して、宗教的指導者に求められるものは、第一義的には、異質性ではなくて典型性である。

このように考えて来ると、宗教的統合の研究に於いて、個の人格構造に於ける宗教の動きの研究のもつ意味が理解される。それは、宗教的全体の研究に際しても、重要な基盤として考えられねばならない。他の統合の研究に於いて、部分の研究は全体の研究とは異なる。しかし、宗教現象の場合、個、即ち部分に於ける宗教の機能の姿は、宗教的

全体の在り方の研究の基盤を構成する。イエスをパウロを研究するものが、キリスト教の全体の研究につながることを疑ったことはなかった。

処で、このような宗教的統合体内の人格構造の基本的特性、価値づけ方、事物把握様式は、多くの場合、幼児期、児童期の学習を通して伝達される。このような時期での伝達を通して、多くの場合、人格構造の中核的部分に、これが把持されていく。

このような宗教的意味づけの体系の共有は、内調整の様式の共有でもある。共有されている意味づけの pattern は内調整に関係している。内調整のメカニズムを含む意味づけ方である。単なる集合表象と宗教との異りは、それが、この内調整のメカニズムに関係するものであることともいうる。そして、その内調整のメカニズムは、死の場面での adjustment を中核的部分として含んでいる体系である。宗教は生きることの意味づけを、死に対する調整を、その核的部分として含む内調整のメカニズムである。

この死に対する人間の状況は、古来から変わってはいない。同じ状況、同じ基本的問題が、何の変化もなく、今に、存している。末梢的な局面で人間は非常に変わったかもしれない。しかしその中核的な在り方に於いて、人間は古代と何の変化も来たしていない。これが宗教に於いて、人間が古代に帰りうる故でもある。死の前で人間は全く変わってはいない。自己欺瞞の様式が、複雑に、少しきらびやかになったにすぎない。時間が少しのびたにすぎない。老いは確実に進んで来る。人は死に向って直進する。ガラスの容器の中で泳ぐ金魚と、何の変わりもない。金魚は何十日か生きる、人間は何十年か生きる。少し複雑に動くだけである。全く無意味である。

人間には、生きることの意味づけが必要である。そしてその動きが宗教である。無意味から人間を救うことを宗教のメカニズムは含んでいる。内調整のメカニズムである。死の場面での内調整はその体系の中核的部分である。この死の場面で人間はあくまでも個である。処で、この内調整のメカニズムは絶対性、真理性の主張を必須のものとして含んでいる。真理であることの確信なしに、このメカニズムは生きて働くことは出来ない。(この内調整のメカニズムについては別稿に於いて取り扱っている。) 宗教は集団的事象であるが、このような個に於ける機能を含んでいる。以上、個の重要性に言及したが、しかし、そのような個は、ばらばらの個としてあるのではない。個の単純な集りが全体であるのではない。個は全体の中で、群をなし、構造をなしているものである。それは家族の一員として、ある親族集団員として、地域集団の一員として存するのである。抽象的な無色な個は存しない。

黒崎のカクレの個人も、カトリックの個人も、個としてカクレであるのではない。その一家がカクレであり、その親族一統がカトリックなのである。後に言及するが、カクレの親族は殆んどがカクレであり、カトリックの親族も殆んどがカトリックである。

宗教的統合について考える場合、個の人格構造に於ける宗教の機能の姿を考えることの必要とともに、その個が家族として親族として、社会的構造をもった姿に於いてある事実を捉えねばならない。これらは個に外在する要素である。しかし、それによって個はカクレ、またカトリックとなる。

更に、また、このようなカクレの個は、その集団の中で均等の力で働いているのではない。指導者には、指導者としての役割りと影響力がある。帳方はこの地域のカクレの中心的人物である。帳方の在り方は、その集団のカクレの

在り方に大きな影響力をもっている。帳方Xは立派な宗教的人物である。信仰内容も最も典型的なものを充分にもっている。宗教的知識、理解の度も高い。MMPI testの宗教項目への結果でも、宗教度の最も高い一人である。そこで、彼は指導者として選ばれた。処で、彼の娘の婿も旧制帝大出の外からの人であり、妻も外部から入って来た人である。親族には、ここのカトリックの中心人物が含まれている。彼の意識構造の中の親族はカクレ5、カトリック3である。彼はカクレの信仰としては充分なものをもちながらも、カクレの集団構造の中核的因子である宗教内婚の親族構造とぶつかるものをもっている。このような中心指導者の、カクレの在り方の中心的なものとの不協和は、この集団の在り方に非常に強く影響している。その集団的行事の姿は極度に低下している。帳方Yの場合、その親族は多い。そのすべてはカクレであり、宗教内婚の典型的事例である。カクレ32、仏教^{（註2）}2である。

これも個に外在する因子である。このほか数多くの経済的、政治的諸因子、文化的諸因子がこの宗教の在り方を規定し、またそれに規定されている。

このオラシヨ群も、このような個の人格構造に外在する宗教的な諸因子の一つとして考えられる。キリシタンがよくたづねた墓所の如きもこのような宗教的外在的因子の一つである。これらの文化的経済的諸因子の在り方は、強く相互に関係し合っている。私は、このような関係の網の目の中の一因子として、このオラシヨ群をも考えていく。これが働く姿も、ここでのオラシヨ本の在り方の線にしたがって考えられねばならない。それは各家族の中で記され、蔵され、伝達され、影響している。家の覚え書きである。かつては暗誦が競われたかもしれない。しかし現在の段階ではこれが生きて働いている度合は弱い。

しかし、このオラシヨ群の中に存している思考の Pattern は、後にその姿を MMPI の宗教項目への結果反応、世帯主に対する同じ項目に関する調査、P. F. Test などの中でもみていく如く、この地域では、生きている。このことを考えると、これが教科書としてあつて学ばれたというのではなくて、expressive behavior の結果という方向へのかたよりをもっていたと考えることも必要であらう。

ともかく、このような関係の網の目の中での一因子として、このオラシヨ群を取り扱っていく。

(二) 各オラシヨ本について

私は、オラシヨの整理に際して、各オラシヨ毎に、上に、T₍₃₃₎の如く各本毎の整理番号及び通し番号を記入し、下に、各オラシヨ本の中での記載順位を記した。それがオラシヨ本の始めにあるか、終りの方にあるかは重要であるからである。なお、この人々はうらしょと発音する。次に、オラシヨ本の各々に言及する。

(1) 下黒崎、迫の帳方、高野公一所有のオラシヨ本をTとした。それは73のオラシヨを含むものであり、お帳と天地始事とともに所有されている。彼は現在これを使用し、暗誦しており、その人格構造への内化、理解度も高い。現在生きて働いているオラシヨ本である。これは松本の帳方のものから彼が書き写したものである。筆記帳にべんで記されている。これは帳方から帳方へと伝達されたものである。最も正確であり、訛り方も少い。帳方のなすべきものを含んでいる。この点で一般信徒のものと異っている。役割り区分の姿が含まれている。勿論覚え書である。自分のためのメモである。帳方はカクレの集団の中心である。高野本は帳方の所有して来たメモとして、お帳を開いた時の三座に切つての御おんれいから始まる。お役についての日々のつとめは、天の御三本様に一座、アネスデー様、サン

ドメゴス様その他に一座、サンタイサベリヤ様、サンペトロ様、サンパウロ様に一座、三座に切つて、ガラツサ33べん、御おん礼につとめることに始つてゐる。

(2) 下黒崎、河内の一般信徒、下川庄太郎所有のオラシヨ本をSとした。茶色和綴の小冊子、古いガリバン刷りである。印刷小プリント、コンチリサンの略及びメダイとともに所有されている。このオラシヨ本は河内あたりの若干の人々に共有されていよう。古いものである。彼は神社総代もしたことがあり、帳方Mに属する。信仰心のあつ人物である。妻は帳方Mの妹である。18のオラシヨを含んでいる。

(3) 一般信徒、下黒崎、迫の故田中弥之助のオラシヨ本をT_aとする。諸うらしよ本、田中弥之助、明治三五年旧五月二五日書之の表書きを持ち、筆で書かれた覚え書である。現在は娘有田シズが所有している。半ばから筆者が交つてゐる。19のオラシヨを含んでいる。長文のどそんに始まる。これが、このうらしよ本の冒頭にあることが問題であり、重要である。帳方高野はこのオラシヨを全く知らない。私はフィリップンからの系統のものではないかと考へてゐる。この地域にジェスイットと異つた流れが入つて来てゐることを示しているとも考へてゐる。どそん、御かなしみ、御よろこびの三つが最初の筆である。書きなれた字である。なお田中と高野の住居の距離は約50米、高野と下川の距離は百五十米である。毛筆である。

(4) 東楡山郷の一般信徒、竹内久三郎の覚え書きである。T_kとする。百姓の拙い字である。筆で書かれてゐる。御正新く本、明治三八年、竹内久三郎の表書きをもち、信徒としての、この地域での生活で、どうしても必要なものを含んでいる。半ばから、その子現在七十才程の老人の筆に交つてゐる。これは非常に達者なペン書きである。全部で

七つのオラシヨを含んでいる。御ばっしょに始まり、けれども、ねる時のおらしょ、めしいただく時、前さぐる時が父の筆である。東極山は下黒崎と同じ佐賀深堀領である。

(5) 浜崎ツネは昭和四十三年八十三才であり、明治十七年生れである。彼女は字を読めないし、書けない。彼女に選択させつつも、私がオラシヨの名をいって、口誦してもらった。それをテープで隠し取りしたもの、私が記述したものである。彼女は毎朝五時頃に起き、約二時間程オラシヨをとなえる。彼女の暗誦の量と質とは驚くべきものである。Hとした。十のオラシヨを含んでいる。彼女のウラシヨの口誦は正確であり、非常な量の棒暗記である。明治二十年末、三十年初めに、爺さん役の父から口移しに習ったものである。このような暗誦は青少年期以外には困難である。明治二十年代のオラシヨ口誦の姿が、発音、アクセントなどともに、彼女のオラシヨに明確にみられる。このような口誦をなしうるものは彼女だけではない。有田シズ姉、約六十才も多くのオラシヨを暗記し、現在も長崎の病院で毎日祈っている。この年代の人々は集って習ったという。浜崎の住居は田中から約百米である。このような地理的距離関係をもつ諸本の間に存する一本にもとづいた共通のなまり方の存在などは、これらが長い時代を経ているものであることを示している。

(三) このオラシヨ群のもつ特徴について

(a) マンダメント戒の欠如について

サビエル書簡の数は多い。その克明な分析は別稿にゆづる。彼が宣伝えの際、何を伝達しようとしたか、何を最も

中心的なものとして伝えようとしたかを示す事例として、ゴア及びマラッカからの彼の書簡を引用する。

「私の言葉はバスク語で彼等のはマラバール語だったので、互に意志の疎通を計る事が出来なかった。…大変な努力でクレド、十戒、パーテルノステル、アベマリヤ、サルベレジナ confiteor (黒崎では二へんがえしという) をラテン語からマラバール語に訳した。…テキストを暗誦してから…これらを教えた。…吾々は三位一体の神を呼ぶことから始めた。次に声高にマラバール語でクレドを述べた…十二の信仰箇条の各々に少しづつ止まった。(没収教書ケレンドの中に、十二箇条に分けての説明がある)…この十二の信仰箇条を堅く、疑うことなく信ずること以外、何もキリストは命じなかったことを説明した。…次に十戒を教える。キリスト教徒の法は、唯だ十の戒律を含んでいることを説明し…彼等がクレドと十戒を理解した時に、私はパーテルノステルとアベマリヤを祈る。…confiteor を教え…洗礼を授ける。この授業の最後に皆でサルベレジナを祈る。私はかかる方法で村から村を訪ねた…これを暗誦し、写し、日々祈るように書ける人達に命じた…」一五四四年一月十五日ゴア発書簡。

日本でのことについて「日本人は、我等の主イエス・キリストの秘蹟を深く理解し…ヨーロッパ人の如く読み、書き、教会の生活に与る。…彼等は地上に於ける我等の主イエス・キリストの労苦、苦痛、十字架の死の秘蹟に最も深く心を打たれ、この秘義に於いて繰返し繰返し自己を深める。感動してパーテル・イグナチウスの心霊修業に身を委ねた。…」一五四九年六月二十日マラッカ発書簡、

豊後発フェルナンデス書簡に、「キリスト教教義はパーテルノステル、アベマリヤ、クレド、サルベレジナをラテン語にて、デウスの十誡並に教会の制令…を国語にて…」一五六一年十月八日発

以上の書簡のなかにみられるものは、黒崎のオラシヨ群の中に現存している。その中、十戒だけがかけているのである。

次に、更に、初期農村キリシタンでの様子をみる為に、長崎周辺での組の規約をみておく。元和六年十二月の Jacome Antonio Giannone の組の規約と、一六二七年の Rodriguez のサンタマリヤの組の規約を事例としてとる。当時のキリシタン村落での在り方を知るよき資料である。

Jacome Antonio Giannone の規約の中に、入組の条件として、

「組にいらざる前に、ばあてるのすてる、あべまりや、けれど、まんだめんと、此四反のおらしよをおぼへずしてかなわず。別而十ヶ条のまんだめんとをたもち、いずれのもるたる科をおかすまじきとかくご専一なり」の如きがみられる。

Rodriguez の規約の中にも、

「此の組に入らんと欲する者は、四つの祈り、即ちばあてるのうすてる、あべまりや、けれど、十のまんだめんとすを知らざるべからず。…此の四つのおらしよを諳すること能はざるときは、少くともけれどのみすてりよ及び十のまんだめんとすの心得充分なること肝要なり。…」

「組親はその組衆よく組の掟を守り、殊に、四つのおらしよ及び朝夕でうすに御挨拶を申し上ぐる法を心得るよう…また定められたる時にこんひさんをなし、お授けをうけ奉るようにと意を注ぐべし…」

まんだめんとを含む四つのオラシヨがキリシタンにとって、必須のものであったことがみられる。

この組の生活の中でみられるオラシヨは、殆んどそのままに黒崎のキリシタンの生活の中に、この本書のウラシヨ

群のなかにみられうる。更に、この組の規約は

「毎日のあさのつとめと并にねさまのえさめをたしかに修じ行ぜらるべき事」「あさ夕のおらしよに緩せなく、墓にはあべまりやを申すやうに…」「毎日少くとも二日目毎に、こんたすの第三部なる Corona のおらしよを誦うべし…」「こんひさんをおろそかにすべからず…」「毎日この組の死者のためにろざりよの第三部なるころなを誦うべし…」「墓地或はきりしたんの葬られたる場所を訪れ、彼処にて彼等のあにまのためにおらしよをとなう者…を得べし」

の如きを含んでおり、現在の黒崎のキリシタンの生活の姿を、またオラシヨ群の在り方を、多くの点について説明する。

以上のサビエル書簡、組の規約にみられるオラシヨの殆んど、パーテルノステル、アベマリヤ、ケレンド、ロザリヨの祈り、コンチリサン、サルベレジナ、二返がえしなどは、後述のオラシヨ群中に、数多く諸本にまたがってみられるものである。それにもかかわらず、ただマングメントのみが欠如しているのである。

百をこえる黒崎のオラシヨの中で、罪の内容に関して言及したものは、ただ一つである。科送り^{T₇₃}に「あくしんのとが、にくしんのとが、いつわりのとが、よくしんのとが、まんきのとが、こうまんのとが、おれいしなるとが、たんゆうのとが、いわれちやのとが、あつまりのとが、みとが、ききとが、すいりようのとが、日に千七十七たびのとが…」とのべている一箇所にすぎない。しかもこれはその多さについての説明にすぎない。そして、これは高野にだけしか見られない。罪をとらえようとしたものではない。罪のゆるしの法策は多いが、罪をみつめたものは一つもない。一つの問題点である。

私はこのようなマンダメントの欠如は、前論文に述べた戸籍のきたなさ、私生児の多さ、よばいの存在、犯罪数、迫害、貧困その他の数多くの文化諸因子の在り方と関係したものであらうと考えている。私はフロイド(註)と同じく、これは欠如すべくして、欠如していると考えている。消えるべくして、消えているのである。文化の姿がこの欠如を決定していると考えるのである。なお、カクレの場合の罪とは、悪か日に畠仕事、針仕事をすることであり、ゼジンの日に肉食をしてはならないこと、子をおろしてはならないことである。

オラシヨの多くの面でみられる比較的正確な把持と、罪に関する局面のなさは、syncretismという現象が、その文化局面によって異った強さと度合をもっていることを示していると考えられる。

(b) キリスト教の中核的なものである彼岸的因子、innerなるもの、イエスの死と救いの充分な存在について、黒崎のオラシヨの多くが、死及び回向に関係して使用されている。特にはっきりと死と回向をめぐって使用されるものは、高野七十三の中二十一であり、竹内で一、下川で三、田中で四、浜崎で五である。死、或は回向に関係しないで使用されるオラシヨは少い。浜崎つねは、アネスデー様のオラシヨだけが娑婆、此岸に関係するという。墓所への尊敬と近い感じも強く、有田シヅは、子供の頃私達はいつも墓所におまいりしていたものだという。彼岸的なものの強さは、殆んどオラシヨの内容にも充分にみられるが、特に死の場面に関係したオラシヨとしては、最後の人の側で祈られ、死人の届出や死に生れのベアトサダメにも使用される「最後のおらしよ」、死苦についた時、死人の導き、回向に用いられる「死苦のオラシヨ」などは一般信徒も知っているものである。死人の届け、死に生れ来る人の祈り、最後の水を飲ます時、最後のカケ水、ヒキオコシ死人の為に、死して門をだす時、死シタイケニオサムル時な

どは高野にのみみられる。帳方の役割区分を示すものであろう。しかし、帳方にのみみられるといっても、それに関係するものの数の多さは、その宗教の彼岸性を示すものである。

キリスト教的な思考の体系それ自身が、明確に彼岸的な性格をもつものである。イエスの生涯と死、イエスの血にもとづく永生への救い、このようなキリスト教の中核的なものは、このオラシヨ群の中に充分に存しており、中心的部分を構成している。そしてこれらは彼岸的でもある。戦うべきものとして、自己と世界とを上げたりしている。

しかしこのようにオラシヨの中に存しているということ、実際に人格構造の中に彼岸的なものがあるということとは全く別の問題である。

次に、MMPI, P.F. test などによる人格分析を行った。黒崎中学三年生の MMPI の結果について。

これは五五〇の項目からなる臨床的な人格テストである。その日本版を使用した。L score Hy. score などについても結果を得ているが、ここでは宗教に関係した若干の項目の結果のみに言及する。表1がその結果を示している。

問題項目は、1₂₇私は時々悪魔につかれます。2₂₃牧師はお祈りしたり信者の頭に手を当てたりして病気を治すことが出来ます。2₂₈世の中のことはずべて聖書の予言通りに変わります。4₅私はたいてい日をきめて教会に行きます。4₈キリストは復活すると思います。4₂₅来世（死後の生活）はあると思います。7₂₂私は罪深い人間だと思っています。7₂₆私は大ていの人より信心深い。9₉あの世には悪魔もいるし、地獄もあると思います。9₁₈私は神様はあると思います。15₁₇ほんとうの宗教はただ一つだけだと思います。17₈毎週何回も神様にお祈りします。17₁₀一週に何回も聖書を熱心によみます。17₁₁本当の宗教はただ一つだけだと信じこんでいる人にはどうにもやりきれません。

表 1 MMPI 宗教項目 (中三)

Data 番 号	悪魔	牧師 治療	聖書 予告	教会	基督 復活	来世	罪	信心	悪魔 地獄	神	宗教 体験	宗教 唯一	媒介	祈り	聖書	カリ ック トク
	1 ₂₇	2 ₂₃	2 ₂₈	4 ₅	4 ₈	4 ₂₅	7 ₂₂	7 ₂₆	9 ₉	9 ₁₈	14 ₃₀	15 ₇	16 ₂₆	17 ₈	17 ₁₀	
38	×	×	△	○	○	○	○	×	×	○	×	○	×	○	×	○
1	○	×	△	○	○	○	×	○	×	○	×	×	×	○	×	○
39	○	×	△	△	×	○	×	○	×	○	×	×	×	×	×	○
2	○	×	△	△	×	○	×	○	×	○	×	×	×	×	×	○
40	○	×	△	△	×	○	×	△	×	△	×	×	×	×	×	○
6	○	×	△	△	×	○	×	×	×	△	×	×	×	×	×	○
3	△	×	△	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○
27	×	×	△	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○
34	×	×	△	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○
17	×	△	×	×	×	○	×	△	×	○	×	×	×	×	×	○
32	○	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	○
35	×	×	×	○	×	△	×	△	△	△	×	△	×	×	×	○
48	△	×	△	×	×	○	△	×	○	○	×	×	×	×	×	○
25	○	×	△	×	×	×	×	×	○	△	×	×	×	×	×	○
47	△	△	△	△	×	△	×	×	△	△	×	△	×	×	△	○
30	×	×	△	△	×	△	×	×	△	○	×	×	×	×	×	○
11	×	×	△	△	×	△	×	×	△	×	×	×	×	×	×	○
4	×	×	○	×	○	△	×	×	△	×	×	×	×	×	×	○
46	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	○
21	△	×	×	○	×	×	×	×	△	×	×	×	×	○	×	○
7	○	×	△	△	×	×	△	×	×	×	×	△	△	×	×	○
45	○	×	△	△	×	×	△	×	×	×	×	△	△	×	×	○
5	○	×	△	△	×	×	△	×	×	×	×	△	△	×	×	○
44	○	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○
9	△	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○
20	△	×	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	○
24	×	×	×	×	×	○	×	×	○	△	×	×	×	×	×	○
22	×	×	△	×	×	△	×	×	×	△	×	×	×	×	×	○
12	×	×	×	○	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	○
33	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	○
41	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
18	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○
16	×	×	×	△	×	×	△	×	×	×	×	○	×	×	×	○
31	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
29	×	×	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	○
19	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	○
36	×	×	△	×	×	×	△	×	△	×	×	△	×	×	×	○
37	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
42	×	×	△	×	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	○
43	△	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
14	△	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
26	△	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
15	△	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
28	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
23	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
10	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
13	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
8	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

これらの項目について、○そう、×ちがう、△どちらでもないという回答がえられている。表1の被験者の上から下への配列は、宗教度の高いものからの順になっている。○をー、△を⁵0.、×を0として各人の宗教スコアを出した。被験者の Data 番号を○で囲んだものがカトリックである。第一位から十位までをみても、カトリックとカクレが入りまじっている。カトリックもカクレも同様のものをもっていることを示している。なお、これは学校の作業として行ってもらったので、宗教的なものの否定の方向に強くゆれていると考えられる。この中では¹₂₇悪魔、⁴₂₅来世、⁹₁₈神、¹⁵唯一の項が多く、彼岸的なものを中三の子供達ももっていることを示している。カトリックで非常に低いものもみられることは、この結果が実際より低い形で出ていることを示している。

この項目にもとづいての世帯主レベルでの調査結果が表2・3である。表2がカトリック、表3がカクレである。(イ)神様はあると思います。(ロ)死後の世界はあると思います。(ハ)悪魔や地獄があると思います。(ニ)キリストは復活すると思います。(ホ)世の中は聖書の予言どおり変わりつつあります。(ヘ)私は罪深い人間だと思います。(ト)私はたいていの人より信心深い。このような項目へのインタビューの結果を yes が○、no が×、わからないが△であらわしたのが表2・3である。

カクレの場合、Total 39で、(イ)神はあるとするもの36、否定するもの2、(ロ)死後の世界があるとするもの23、否定するもの1、(ハ)悪魔や地獄があるとするもの25、否定するもの3である。以上が彼岸的なものに最も強く関係するものであり、その彼岸性への方向は強い。カトリックはTotal 31で、(イ)○31×0、(ロ)○72×1 (ハ)○26×0である。カトリックの場合、この姿は当然である。しかしカクレもカトリックと殆んど異ってはいない。彼岸性は両者の人格構造の中にともに存している。調査の際の操作的諸困難を考慮してもこのことは充分主張しうると考えている。

表 2 宗教項目 (世帯主レベル)

カ ト リ ッ ク

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

	K 30	S 46	S 5	S 35	K 9	K 41	K 28	K 50	K 59	K 47	K 42	K 7	K 53	K 51	K 17	K 19
イ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ロ	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
ハ	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○
ニ	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○
ホ	△	○	○	○	○	○	×	○	△	○	○	○	△	△	○	○
ヘ	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	×	○	○
ト	×	×	普	×	×	×	×	△	○	×	△	×	×	×	×	×
内婚 (×)	○× 1 1	○× 7	○× 2	○× 1	○× 1 15	○× 6	○× 1	○× 4	○× 4	○×	○× 2	○× 1	○×	○× 6	○× 1 6	○× 1 5
	K 22	K 20	K 18	K 39	K 34	K 35	S 14	S 2	S 41	S 17	S 22	S 61	K 36	K 21	K 29	
イ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ロ	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	
ハ	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	
ニ	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	
ホ	○	○	○	△	○	○	△	×	○	×	○	○	○	○	×	部分的に
ヘ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	
ト	○×	○×	○×	○×	○×	○×	○×	○×	○	○×	○×	○×	○×	○×	○×	
内婚 (×)		15				1 12	1	6 1	3	2 3	3	3	5	4	7 4	

カトリック Total 31

イ ○ 31

ロ ○ 27 △ 3 × 1

ハ ○ 26 △ 5

ニ ○ 26 △ 5

ホ ○ 22 △ 7 × 1 × 部分的に

ヘ ○ 24 △ 4 × 3

ト ○ 2 △ 2 × 27

表3 宗教項目（世帯主レベル）

カ ク レ

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

	K24	S66	K26	S22	S10	S42	S24	S25	S26	S65	S23	S58	S36	S16	K4	K13
イ	○	○	○	○	○	○	×	△	○	×	○	○	○	○	○	○
ロ	○	△	△	○	△	○	×	○	○	△	○	△	○	△	○	○
ハ	△	○	○	○	△	○	×	○	○	△	△	△	○	△	○	○
ニ	○	○	△	△	×	△	×	△	○	×	△	×	○	△	△	△
ホ	△	△	△	△	×	△	○	○	○	×	○	×	○		△	△
ヘ	○	○	×	△	○	×	×	○	○	×	×	○	○	△	×	△
ト	×	×	×	○	×	×	○	×	○	中	○	×	×	×	×	○
内婚 (○)	○× 63	○B 71	○× 22	○× 31	○× 172	○× 53	○B× 151	○ 1	○× 53	○× 3	○× 41	○× 113	○× 72	○× 1	○× 7	○× 151
	K5	K6	K8	K14	K15	K55	K40	S9	S13	S12	S7	S26	S37	S40	S38	S20
イ	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	
ロ	○	○	△	○	○	○	○	×	△	△	△	○	○	△	○	
ハ	△	○	△	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○	○	○	
ニ	△	○	△	○	○	△	△	×	○	△	△	△	○	○	△	
ホ	?	○	△	○	○	△	△	×	○	△	△	△	○	△	△	
ヘ	△	△	△	×	○	×	△	△	×	×	△	△	○	○	○	
ト	×	×	×	○	×	△	○	○	×	×	×	×	○	○	×	
内婚 (○)	○× 1	○× 33	○× 5	○× 7	○× 101	○× 21	○× 122	○× 51	○× 11B	○× 3	○× 2	○× 62	○× 201	○× 11	○× 3	
	S15	S11	S4	S55	S57	S69	S43	K2	S29	カクレ Total 39						
イ	○	○	○	○	○	○	○	○		イ	○	36	△	1	×	2
ロ	○	○	○	△	△	△	○	○	△	ロ	○	23	△	14	×	1
ハ	○	○	○	△	△	△	○	○	○	ハ	○	25	△	11	×	3
ニ	○	△	△	○	△	△	△	○	○	ニ	○	14	△	21	×	4
ホ	△	×	△	△	△	△	○	○	○	ホ	○	14	△	18	×	4
ヘ	○	○	×	△	○	○	×	×	○	ヘ	○	17	△	9	×	13
ト	×	○	×	×	○	○	×	○	×	ト	○	13	△	1	×	24
内婚 (○)	○× 12	○B× 3221	○× 17	○× 4	○× 1	○×	○× 62	○× 7	○×							

カトリックは(ニ)(ホ)でカクレより高い姿を示している。カクレ(三)○14×4、(ホ)○14×4、(ニ)○17×13、(ト)○13×24である。カトリックは(三)○26×0、(ホ)○24×1、(ニ)○24×3、(ト)○2×27である。復活、聖書予言、罪深さなどでカトリックの高さが見られるが、とわいえカクレの示した数値も私には驚異であった。罪に関しては先に示した如くカクレは否定するもの13と低い。しかし、このカクレの全体の姿は、その人格構造の中にキリスト教の中核的なものを、相当度に強くもっていることを示している。

次に更に、人格構造の^(註1)の研討の為に picture frustration test を黒崎中学一年生に行った。二十四の絵を使用している。種々の結果が取り出されているが、最も基本的な方向としては、intropunitive な反応の多いことが出ている。黒崎 Data No. 1~50 的 I_{ME} 69.64%、Data No. 50~100 的 I_{ME} は三十二%である。Data No. 1~50 的 mean E 41.14. I 32.1. M 26.8. Data No. 51~100 的 E 41.54. I 29.28. M 28.33 である。隣接非カトリック村の同じ P.F. test の結果、住田の二七〇〇人からの標準結果 E 43.3. I 26.4. M 30.2 との比較、また、黒崎の反応内容の精密な観察は、黒崎の人格構造に内罰的な傾向、aggression を自己に向ける傾向の強いことを示している。カトリックは E 42.9. I 28.7. M 28.3 (N 30) カクレは E 41.3. I 31.3. M 27.1 (N 42) であるので、カトリックとカクレではカクレの方がより内罰的傾向が強いようである。

表4が各絵毎の反応の結果を示している。st. は住田の二七〇〇人からの結果である。黒崎は百名の分析結果である。大体は st. の在り方と同様な方向を示しているが、種々の問題点を含んでいる。黒崎で E の強く出て来るのは絵 12 18 20 で子供同士の場合である。I の強く出てゐるのは、絵 10 13 15 で、大人の入った場面である。M は絵 16 17 19 で特に多く出ている。子供同士、しかも倫理的枠のない場合に標準よりより強く外への攻撃性が出てゐる。大人への従属的傾向

表 4 P. F. Test 結果

	絵 [1]	絵 [3]	絵 [2]	絵 [4]	絵 [5]	絵 [6]	絵 [7]	絵 [8]	絵 [9]	絵 [10]	絵 [11]	絵 [12]	絵 [13]	絵 [14]	絵 [15]	絵 [16]	絵 [17]	絵 [18]	絵 [19]	絵 [20]	絵 [21]	絵 [22]	絵 [23]	絵 [24]
St	E36 e 33	E 41 e 33	e 51	e 49	E48 e 20	I 78 i 37	E39 e 36	I 58 m58	E65 E34	I 36 55	M' 43	I' 43	M53 m63	E 53	I 71	M67 e 49	I 79	M 43	m 61					
E'	10.5	3	7	4	3.5		8	3	13.5	2.5	4.5	5.5	3	5.5	1									
	(0)	(7)	(2)	(2)			(6)	(3)	(13)	(2)	(4)	(4)	(3)	(3)	(1)									
E	46.5	49	19	2.5	21.5	19	6	9	19	57	11.5	10		11	61.5	12	14.5	38	1	4.5	3			
	(38)	(17)	(2)	(14)	(17)	(5)	(9)	(18)	(56)	(5)	(8)			(9)	(54)	(12)	(11)	(37)	(1)	(4)	(3)			
E		3	1		20.5	8	3	12	1	34	9.5	38			1	15			3	7				
	(3)	(1)			(16)	(8)	(3)	(12)	(1)	(32)	(5)	(36)			(1)	(13)			(3)	(7)				
e	15	63.5	54	13	24.5	40	10							0.5	4.5	11	5	8	49	15.5	1			
		(54)	(51)	(4)	(21)	(30)	(2)							(0)	(2)	(3)	(5)	(8)	(48)	(15)	(1)			
I'	2				18.5	2								68						2	17.5			
	(2)				(16)	(2)								(58)						(2)	(17)			
I	10	1			2	37.5	56	511	75	514	0.5	68	5	4	1.5	1	7	22	5	1	28	7	5	17
	(7)	(1)			(2)	(29)	(49)	(10)	(75)	(14)	(0)	(54)	(4)	(1)	(1)		(7)	(21)	(1)	(24)	(7)	(14)		
I		14.5	1.5		1	31	4.5	1	20	5	4						16			40.5				
	(7)	(1)			(0)	(25)	(4)	(1)	(20)	(3)	(4)						(15)			(38)				
i					26.5	7.5	1	13	3	5.5	1	5	1							8	3	22		
					(25)	(6)	(1)	(6)	(3)	(5)	(1)	(0)	(0)				(1)	(12)		(3)	(3)	(21)		
M'	12	11.5		4	7	8.5	4		8	6.5	1	1		41.5	21.5	1	3.5	3.5	18		4	16		
	(11)			(4)	(7)	(8)	(4)		(6)	(6)	(1)	(1)		(40)	(14)	(1)	(3)	(3)	(17)		(4)	(16)		
M	10	6		4	40	5			4	1				88	1.5	14			71.5	4	26			
	(6)			(1)	(36)	(2)			(4)	(1)				(85)	(1)	(7)			(66)	(4)	(26)			
m	6	2	11		28.5	13			9	14				1.5	69				3	8	1	41.5		
	(6)	(6)			(19)	(8)			(4)	(6)				(1)	(57)				(1)	(8)	(1)	(38)		

向が強くみられる。これも黒崎の一つの特徴である。伝統的なものが守られて来た所以でもある。

ともかく、intropunitiveな傾向、aggressionを内へ、自己へ向ける傾向はカクレにも充分に強い。このことは、カクレの人格構造の中に、「内へ」の方向のものが存していることを示している一事例と考えてよいであろう。

以上にみて来たように、オラシヨ群の中にも、また黒崎の人々の人格構造の中にも、彼岸的なもの、innerな方向へのかたより、またキリスト教的なものを中心的なものは存しているようであった。

処で、先のマンドメントがきえ、そしてまたこのようなものが、何故残り得たかが問題である。これらはそれだけで残り得たのではなくて、他の文化因子とからみ合い、互に支え合って残り、また変って来たのである。そのような支えの一つとして親族構造による支えもその重要因子としてあげられねばならない。

表5がカクレの近七、庄太郎、及びカトリックの福松、要松の親族の在り方を示したものである。強い宗教内婚の姿がみられる。庄太郎の一ケース、福松の一ケースのみがカクレカトリック間の婚姻である。左のグループがカクレであり、右がカトリック、中間のものが先生などの外来者である。Sは迫を、Kが河内、Tが高尾、Mが松本の各部落を現わしている。表23の内婚欄の○はカクレの場合内婚、×が外婚、Bは仏教を示す。カトリックの場合は×が内婚、○が外婚を示す。強い宗教内婚の姿がみられる。

このような宗教内婚、PFテストで出たような大人への従属性、その他この文化の中の種々の因子の在り方が互にささえ合ってこの姿を出さしめ、支えている。この問題は別稿で論ずる。

通 婚 図

カ ク レ

S 1	S 30	S 61	K 14	M 5	M 28	M 103
S 4	S 31	S 62	K 15	M 6	M 31	
S 5	S 32	S 63	K 16	M 8	M 32	
S 6	S 34	S 65	K 23	M 9	M 34	
S 7	S 35	S 67	K 24	M 10	M 41	
S 8	S 36	S 68	K 25	M 12	M 42	
S 9	S 38	S 69	K 26	M 13	M 43	
S 11	S 39	S 72	K 27	M 15	M 46	
S 12	S 41	S 76	K 39	M 16	M 49	
S 15	S 42	S 78	K 40	M 17	M 50	
S 16	S 43	S 84	K 41	M 18	M 52	
S 19	S 44	S 85	K 42	M 19	M 55	
S 20	S 45	S 86	K 46	M 20	M 57	
S 22	S 46	K 2	K 48	M 21	M 59	
S 24	S 48	K 4	K 58	M 22	M 60	
S 25	S 49	K 5	K 61	M 23	M 61	
S 26	S 51	K 6	T 40	M 24	M 64	
S 27	S 56	K 8	M 1	M 25	M 69	
S 28	S 57	K 10	M 3	M 26	M 71	
S 29	S 59	K 13	M 4	M 27	M 76	

仏教及び無宗教

S 70	S 55	T 30
S 74	S 64	T 32
	S 77	T 34
S 83	S 80	T 37
	M 56	T 39
	M 51	T 43
		T 44
		T 45
		T 47

カ ト リ ッ ク

M 65	T 33	T 8	K 43	K 7	S 2
M 66	T 36	T 9	K 44	K 9	S 3
M 68	M 7	T 10	K 47	K 11	S 18
M 81	M 11	T 11	K 49	K 12	S 21
M 90	M 14	T 12	K 50	K 17	S 23
M 91	M 29	T 13	K 51	K 18	S 37
M 93	M 30	T 14	K 52	K 19	S 40
M 97	M 33	T 15	K 53	K 20	S 47
M 98	M 35	T 17	K 54	K 21	S 50
	M 36	T 18	K 55	K 22	S 52
	M 37	T 19	K 56	K 28	S 53
	M 38	T 20	K 57	K 29	S 54
	M 39	T 21	K 59	K 30	S 58
	M 40	T 23	K 62	K 31	S 60
	M 44	T 24	T 1	K 32	S 71
	M 45	T 25	T 3	K 33	S 73
	M 53	T 26	T 4	K 34	S 75
	M 54	T 27	T 5	K 35	K 79
	M 58	T 29	T 6	K 36	K 1
	M 63	T 31	T 7	K 41	K 3

要松

福松

近七

庄太郎

(四) オラシヨの内容の概観

オラシヨ群は、これを、次の六つの group に分けることが出来よう。①オハツヲの上ゲ下ゲをめぐるもの、②死及び回向に関するもの、③イエスの生涯と死を中心にえがいているもの（主として悲しみの節を中心に用いられるもの）④罪のゆるしをめぐるもの、⑤此岸的なもの、日常生活での祈り、⑤アベマリヤ、パテルノステルなど頻繁に使用される祈りである。ここでの、全体の配列は、このようなグループ分けに従ってなされている。各オラシヨの上に、各オラシヨ本別番号及び全体の通し番号を付し、下に各オラシヨ本の中の記載順位を記した。この順位はオラシヨの重要性その他の決定の為に必要である。

次に、各 group について少しづつ観察する。

第一のオハツヲのアゲサゲについて。

これはミサに関係するものをも含んでいる。 $T_2 T_3 T_4 T_5$ にこれがみられる。「オンミデウスノクワイキノサケ、メザンオザンノサケナラバ」はオンミデウスの御血……と考えることも出来るかもしれないし、「ワレラガヨーナ、アクニンニ、一スイニスイオユルシクダサルヨーン」との表現もミサの姿を考えさせる。この順位が高野本のはじめにあることも重要である。全体的に、高野のものが最も正確で、典型的である。オハツヲアゲは座締をもって始まる。三位一体の神に祈ることに始まる。 $T_6 T_7 T_8 T_9 T_{10}$ 。高野では T_{11} の如く、天主、マリヤ、天使使徒、死者の三段の形でオハツヲがささげられる。この形は田中 $T_1 T_2 T_3 T_4 T_5 T_6 T_7 T_8 T_9 T_{10} T_{11}$ 竹内 $T_{12} T_{13}$ でもみられる。田中、竹内ではなまっている。田中では座シジメとなっているが、内容とし

ては「我等がデウスサンタク羅斯の御しるしをもつて我等が敵をのがらせ給う」となっている。下げてから三位一体の神に祈る。田中の $Ta_3Ta_4Ta_5Ta_6$ は一般信徒のオハツラの上げ下げ及び客にいった時の回向の仕方を示している。下川の場合は座メ「万事かなひたもう、デウスを、はじめ奉る」に始まり、二返がえしがつづき、これをもつてたのみ奉るとなる。細かな觀察は、これらのオラシヨ本それぞれの異り、なまり方の度合を明かにする。

第二の死をめぐるオラシヨ群については先に言及した。高野本に多いが、そこには、帳方としての役割りがみられ、正確で、なまりも殆どない。死に生れ来る人の祈りは、死に生れの多さと、救への願いの強さと、儀礼の必須性の確信とを示している。「にんげんは、つちのちり、みず、あぶら、しを、よつのあぶらでかためしもの、ししてたましいは天にのぼり、のこりし、にくしんは、もとのつちにもどします」 T^{24} などは彼岸性を單的に示しているものである。

第三はイエスの生涯と死をえがいたものである。キリスト教の中心的思考を述べたものである。ケレンドはすべてにあげられており、ゴバシヨは下川、竹内、高野に、ロザリヨの祈りは高野、下川、田中にみられる。オラシヨの濃度がもっとも高い部分である。黒崎の多くの人々の知ってている部分でもある。悲しみの節の間に使用されるものである。オミサマの祈りは悲しみの中はいつでも、お告げの祈りは悲しみの真中に、ゴバシヨは悲しみの中から後に、ケレンドは悲しみの上りにと述べられている。お誕生にも人々は集るが、悲しみの節はより大きな重さをキリシタンの中でもっていたのではないかと思う。

第四は罪のゆるしに関するものである。コンチリサンは高野、下川、田中にみられ、浜崎も暗誦可能である。男の告白の場合にはこれに二へんがえしを加え、女はサルベレジナを加えるとされている。サルベレジナは高野、田中に、科

送りは高野にみられる。コンチリサンの略の始めの部分が浜崎に、その第一が下川にある。夕まぐれが高野、浜崎にみられる。夕まぐれに三べんいうことによって、その日の罪がゆるされるとする。この群のオラシヨは多い。罪のゆるしに関する願いと関心の強さを示している。罪のゆるしと救いへの熱情は高い。この罪への関心のたかさにもかかわらず、罪とはに関係すべき十戒のここにみられないことは面白い現象である。罪は悪か日に畠仕事、こえ抜い、針仕事などをするこことゼジンの日に肉食することなどであるが、お帳、日繰帳を中心とした罪の考え方である。

第五は、此岸的な祈り、日常生活での祈りである。従来のキリシタン研究に於いて、過重に強調されて来たものである。ここでは、その数も少く、長さも短い。高野のオラシヨ本では最後にかためて附されている。数的にも質的にも他のグループのものよりもはるかに周辺的であると考えられる。

草ふく祈り、悪魔抜い、恐しき所をとる時、ムラカタグワン、漁をタノム、イエサクジ、目の祈り、雨乞などである。これらが従来の研究では不当に強調されて来た。この中に分類されているもので長いものはアネスデーサマの祈りである。Agnus Dei 神羔様の祈りである。高野、下川、田中、浜崎にみられ先のものとは別の意味をもっている。病氣、困難の場合の祈りである。浜崎はこれのみが娑婆で使用されるものという。朝夕の祈り、食事の祈りは、日常的なものではあるが、此岸的なものではない。竹内のめしいただく時は三位一体の神に恵みを願うものである。ねる時のオラシヨは非常になまっている。

第六は、よく使用される天ニマシマス、ガラッサミチミチなどの祈りである。この両方ともに欧文、日本文で使用されている。欧文はどれも全くなまってしまうている。パーテルノステルは欧文がT⁷⁵、日本文Ta¹⁸Ta¹⁹T⁷⁴T^kに、欧文アベ

マリヤは死人のユコーに使用され、 $T_1 S_5 H_1$ にみられる。日本文ガラッサミチミチは $T_7 H_{10} T_{22} a_{23}$ にみられ、御礼、オハツヲアゲ、死人に使用される。ケレンド、二へんがえしもこの部に入れてよいかもしれない。サビエルがゴア発書簡であげたものなどはここに入れてよいであろう。

次に、基本資料として黒崎のオラシヨをあげる。

(五) 黒崎のオラシヨ

T_1 (1) おちようを、ひらいたときの、ごおんれいさがらめんとう1
さまえ、がらっさ三十三べん。日日のひちようめんのやく、

あぼうすところさまに、ごおんれい、がらっさ三十三べん。

。おやくに、ついでのにちにちのつとめかた。

てんのごさんばんさまに

一座

サンタ・サガラメントーサマ

アネースデーサマ

サンノドメーゴスサマ

サンミゲリーサマ

アルカンジョサマ

サンタ・イサベリヤサマ

サンタ・ズジイナサマ

アンデョ、アポーストロサマ

サンペートロサマ

サンパウロサマ

一座

一座

以上三座にきて、がらっさ三十三べんごおんれいにつとめ
めす。

T_2 (2) デウスバアテル、ヒリヨ、スピリトサント三ツノビルソナ、2
ゴイツタイノ、デウスサマ、カタシケナクモ、オミキノ、オ

ハツヲ、アクニンナル、ワレラニ、アタエタマエ、アメン

T_3 (3) デウスバアテル、ヒリヨ、スピリトサント、三ツノビルソ3
ナ、ゴイツタイノ、デウスサマ、カタジケナクモ、ゴコクノ

ゴゼンノオハツヲ、アクニンナル、ワレラニ、アタエタマ
エ、アメン

T_4 (4) オミキノイタダキミチ

○コノサケト、モウスルワ、オンミデウスノ、クワイキノ、4
サケ、メザンオザンノ、サケナラバ、ワレラガヨーナ、アク
ニンニ、一スイ・ニスイ・オユルシ、クダサルヨーナ、デウ
スパアテル、ヒリヨ、スピリトサントノミニヨリテ、アメ
ン

T₅⁽⁵⁾座締^{ザジメ}

。われらのでうす、さんたくるすの、おんしるしを、もつて、5
われらが、てきを、のがしたまえ、でうすバアテル、でうす
ヒリヨ、でうすスピリットサント、三ツノビルソウナ、一つ
のすず、たんしやうの、おんちからをもつて、ごおんれい、
一座、つつしんで、はじめたてまつる。

Ta₃⁽⁶⁾ザシズメのウラシヨ

我等がデウスサンタクロすの御しるしを以て、我等が敵8
をのがらせ給ふ。

T₆⁽⁷⁾座締^{ザジメ}

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

○我等の天帝^{デウス}、さんに十字架^{クルス}の御印^{オンシシジ}をもつて、我等が敵を^{テキ}、6
のがらせ給え、天帝^{デウス}バアテル、天帝^{デウス}ヒリヨ、天帝^{デウス}スピリット
サント、の、三ツのビルソウナ、一つのすず、たんしやうの、
おんちからを、もつて、なにがしのごえこう一座、つつし
んで、はじめたてまつる。

S₁⁽⁸⁾座^ざ（座につきしとき申す）

万事かなひたもう、デウスを、はじめ、奉る。
「いつも、びりぜん、さんた、マルヤ様、さん、みぎいり、1
あるかんしよ、たつとき、あぼうすとろ、さんペートロ、さ
んフランジ、もろもろの、ベヤーとう、御身ばーてるに、と
が、を、あらはせ奉る、心ことばの、すーわざを以て、多くな、と
がを、おかしあること、これわが、あやまり、これわが、あや
まり」これ、わが、ふかき、あやまり、なり。（一へんがえし）
これを以て、おんたのみ上げ、たてまつる。あんめんぜすす

T₇⁽⁹⁾（二）我等のデウス、さんた、くるすの、おんしるしを以て、8

われらが敵を、のがらせ給え、天帝^{デウス}バアテル天帝^{デウス}ヒリヨ天帝^{デウス}
スピリットサント三ツのビルソウナ一ツもせず、いーなもせ
ず、いのものバアテル、いでヒリヨ、どよバアテルアメン、

コレニ、天ニマシマス三べん。

Ta₂
(10) オハツオノササゲ方

ハツヲノ上ゲ方ノワケ

今日何々のオハツオ天にまします三べんで上げ申たベヤト9
ーサントウデ様^{ジョ}オンとリナシ下サレ、シゴの御アンジョー方
サントマルヤ女^{ジョ}に御取次下被れ申ス様ニサントマルヤ女今日
何々のオハツヲ天にまします三べんで上げ申した御身デウス
様に御取次下被申す様にサントマルヤ女^{ジョ}シゴの御アンジョ方
御取り上下被^{ジョ}れたらうサントマルヤ女コメと言ふベラト、サ
ンナ、マルヤ女御取次下され申す様コメと言ふサンナマルヤ
女何々の御ハツヲ天ニマシマス三べんで上げ申した御取上^下
被れ申す様あんめデウス

Ta₃
(11) オハツヲ下げテ御礼

下げ方の道理^{ワケ}

シメと言う悪人ドメガス女

今日オハツヲ上げ申した御礼アベマルヤ六べん上げ申した10
ベヤトのサントウデ様御取直^{ナラ}し下被れシゴの御アジョー方サ
ンタマルヤ女^{ジョ}に御取次ぎ下被れサントマルヤ女シメと言う悪
人ドメカス女のオハツヲノ御礼アベマルヤ六べん申して上げ
申した御身デウス様に御取り次ぎ、下被れ申す様御身デウス

様オハツヲー御礼アベアルヤ六べん申して上げ申した御取上
げ下被れ申す様御身デウス様サントマルヤ女^{ジョ}シゴの御アン女
方何と言ふベラトサンナ何某女に上げ申したオハツヲ御取り
上げ下被りたらう何といふ悪人何某女に御下げ下被れ申す様
にアンメデウス

オハツヲー下がりてから申してトナヘル事

デウスパーテルデウスヒリユスベルトサントロミなを以
つてあめん

Ta₄
(12) ウラッショヲ使ふ道理

ザシズメは一べん申して天にマシマスは三べん申し頭を下11
げオハツヲヲ上げテササゲル ソシテオハツヲ下ける時は
又サシズメラ一べん申してアベマルヤ六べん申し頭を下げ前
にしろした通り申す者なり。

Ta₅
(13) オ茶ー御客に行った時のエコーの仕方

頭を下ゲ、今日オゴチソウになり申ししたエコウ申ソーと申12
してサシズメを一べん申しアベマルヤ十べんなら十べん出
来る丈申す事そうして申した時は

Tk₁⁽¹⁴⁾ 前さぐる時

ほろもつ太ホヲレンソヤさんちりいあぜもつ太あめんぜず⁵
うす

T₈⁽¹⁵⁾ オハツヲアゲ

ワレラ^{デウス}。我等の天帝、さんた十字架の御印をもつて、我等が敵を、^{クルス}
のがらせ給え天帝^{デウス}バアテル、ヒリヨ、スピリトサント、の御^{オンシルシ}
名によりてアメン。
これに、天にましますを三べんくわえてあげます。

T₉⁽¹⁶⁾ オハツヲサゲ

○アベマルヤでも、ガラツサデモ、なんべんなり、いゆて、
このぎに、そなえ、あげたる、おはつをを、おんうけとりく
だされました、おんかたさまに、おこしもうした、おらっし
よは、ごおんれいの、しるしとして、つゝしんで、さゝげ、
たてまつる、どうぞ、おんとりあげて、くだされますように、
つゝしんで、たのみあげ、たてまつる。

T₁₀⁽¹⁷⁾ オハツヲアゲ

○ワレラノ、デウス、サンタ、クルスノ、オンシルシヲモツ¹⁰
テ、ワレラガテキラ、ノガラセタマエ、デウスバアテル、ヒ
リヨ、スピリトサント、ノミナニヨリテ、アメン

テンニマシマス三べん、イフテカラ

シユゴノ、ゴアンジヨ、ベヤトノサントース、サマノ、オ
ントリナシニテ、オンハハ、サンタマリヤサマノ、オントリ
ツギラ、モツテ、オカシラハ、オンミ、ゼズサマニ、オン
サゝゲ、ナサツテクダサレマスヨーニ、オントリツギラネガ
イ、タテマツル、ツギワ、アボーストロサマニ、三番メ、オ
ノコリワ、ナニノナニガシニ、オンサゲ、ナサツテ、クダサ
ルヨーニ、ツトムルコト。

S₂⁽¹⁸⁾ 御はつを上げ（五へん）

天にまします、我等^{われら}の、御親^{おんおや}、みなも、たつとばーる、た⁴
まへ。みのきとりても、天においても、おぼしめし、まゝな
い如^{ごと}く、地においても、あらせ、たもうを、今日我等日々の、
御やしなひ、人ゆるし申すこと、我等^{われら}が科^{とが}を、ぬがしたも
う、あんめん、ぜずす。

S₃⁽¹⁹⁾ おはつを下げ（御恩礼卅六べん）

がらつさ、みちみち、たまう、まるや、御身おんに、御でーを、5
なし奉る。御あるじは、御身と共に、まします。女人にょにんのうち
に、おいて、あけて、ごはくわ、よにしきなり。又こたない
の御子ゼーズに、たつとき、まします、でうすの、御母
さんたまるやさん、今も、我等のさいこの時も、あく人なる
我等のために、つつしんで御たのみ上げ奉る。あんめん、ぜ
ずす。

Tk₂
(20) 天にまします三回を申し上げ

6

我吾悪人なれ共天にまします三べんに依りお供ゑ致しまし
たる今日出来合ひのおはつをに御茶は御母三た丸や様の御名
を借り上げまして第一国の御主じ御身オウス天主様あほうす様其他
ローマゑきれんじやおつとめなさいます神々様に差し上げ
下さいましたるお下りは、此家にかくまいおられます久次郎
のみぎ一り他みようじや方一同に対しましても洩れなくお与
え下さいますよー謹んで御願ひ申し上げ奉るあんめんぜずす
御供養座付け

T₁₁
(21) ササゲミチ

7

しゆごの、ごあんじよ、べやとの、サントース、さまの、
おんとりなしを、もつて、みぎのいっ一ぺんは天てんのおんあるじ、
おんみ、ゼズさまに、おんささげなさつて、くだされます
ように、そしやうの、おんとりつぎ、おんとりなし、おんと
りあわせの、ところは、おそれながら、おんはは、サンタ、
マリヤ、さまを、たのみて、おんあるじの、おんまえに、わ
れらの、おんとりつぎをなし、くだされますように、つゝし
んで、たのみあげたてまつる。

つぎのイッ一ぺんは、あんじよ、アポーストロサマに、おんさ
げなさつてくだされますように、たのみあげたてまつる。

三番目の一ぺんは死したる人は、なにのなにがしに、おん
めぐみ、くださるるひとえように一重にねがいたてまつる。

T₁₂
(22) オハツヲヒラキニワ、テンニ、マシマス、五十三ベンオン 63
ミゼズササニ。

T₁₃
(23) トドケノオハツヲノモウシアゲ

。たれの、サンパウロどの、しゝましてござる。
死したる人の、アニマのつけとどけの、おはつを、天にま

11

します三べん、おんととりつきさまの、おんととりつきをもつて、天のおんあるじ、おんみゼズさまに、おんととりつき、くだされますように、つゝしんで、たのみあげたてまつる。天にまします、三べんは、おはつをの、ごおんれいとして、おんみゼズさまに、おんさゝげたてまつる。

T¹⁴₍₂₄₎ トドケノモウシアゲカタ

○たれのさんぼうろどの死しましてござる死したる人の、アニマ、ふたゝび、おんみゼズさまの、おん子、いちぶんとおぼしめされて、十方のばらいそに、かなわざるときは、ふるか、とりやの、ごにんずのうちに、おんとりあげて、めしくわえさせてくだされますように、おんみ、ゼズさまに、つゝしんでたのみあげたてまつる。

とどけのおらつしよ、さいご、さまのおらつしよ一べん、てんにまします三べん

○とどけがすんでから、ごおんれいに

○おんみ、ゼズさまに、がらつさ五十三べん

○おやくのかたさまにがらつさ三十三べん

○つきが、死人に、ごえこう、あべーまるや、五十三べんにけれんど三べん、くわえます。

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

12

○とどけを、うけてから、七日までの、ぢいさんの、つとめかた、おんみゼズさまに、がらつさ五十三べん
○つきが、ごやくの、かたさまにがらつさ三十三べん
○しまいに、死人に、ごえこう、あべーまるや、五十三べんにけれんど三べん、くわえる。

オハツオヒラキニワ

○天にまします五十三べん、おんみゼズさまに。

T¹⁵₍₂₅₎ 死ニ生レクル人の祈禱

○ありま一本いっぽん、つくり、いだすはちつしようなり、このあり17ま、さんみげるとのといふ、ひとのありま、ふたたび、おんみゼズさまの、おん子、いちぶんと、おぼしめされて、十方のばらいぞに、かなわざるときは、ふるかとりやの、ごにんずのうちに、おんとりあげて、めしくわえさせて、くださるように、天のおんあるじ、おんみゼズさまに、つゝしんでたのみあげたてまつる。

T¹⁶₍₂₆₎ ○死人の出タチニワ、オハツヲ、アゲテカラ、オンレイニ座、70

エコー一座、三座スギテカラ、オハツヲサゲル

○ツギワウツタチノ、エコー、ツギワ、ワカレノエコー、ツ
ギワ、ノベオクリ、コンチリサン、七ヘン。七日ノドーリワ、
ゴエコーラマエニ、ツギワ、オンレイニ座

T¹⁷₍₂₇₎七サイゴノオラツシヨ

23

コレワ、サイゴニ、オモムイタ人ノソバデイノル。シ
ニノトドケニモ、死ニ生レノベヤトサダメニモ、ツ
トム。

ひとつさいごにおよぶ、ひとのそばよりオラツシヨを申上
げ奉る。いかに、おんあるじゼズスキリストこのひと若年の
時より、あやまつたる、ぶちようほうをおぼしめし、出し給
いて、喜びより、たのみ奉る。ごうだいのおんものと、おぼ
しめし、(いたしたまいて、)天をひらき、アンジョ天の上よ
り、大將軍とよばれさせ給ふ、サンミゲル、アルカンジョ、
たつときアンジョ、このものを、おんむかいに立出給ふ、
セルザレントばらいぞのかぎをわたされたもう、サンペートロ、
このアニマ、うけとりゑらべの、うつわものと同ばれさせ給
ふ、サンパウロ、ジウス、ミステリヤをさつけたもふ、サン
ジュワン、このもののためにごこうりよくをゑさせたまえ、
人々とがをゆるしたもふ、ちからをいゆたまわん、ちからを、
あたいたもふ、アポーストロ、このもののため、おんとりな

したまいて、このよにてかじよくをうけ、ろしようとなりこ
のよをさり、サントース、てんのうえにて、バアテル、ヒリ
ヨ、スピリット、サント、おんみ、グロリヤをあたえ給えと、
つゝしんでたのみあげ、たてまつるアメン

コレワサイゴニオモムイタヒトノソバデイノル、死人ノト
ドケニモ、死ニ生レノベヤトサダメニモツトム。

S₄⁽²⁸⁾さいごの、おらつしよ

11

さいごに及ぶ人のそばより、おらつしよを申上奉る。
いかに、恩^{おん}なるぜずす、きりしと、此人^{ワカキ}若年のうち、こう
だいなる人のおぼしめされし、天の上では、大將軍と、よば
れ、させたもう、さんみげり、あるかんじよ、たつとき、
あんじよ、此人の、ばらいその、導きたまはれやと、ばらい
その、かぎ、わたされし、さんペーとろ、又此人のごこう
くを、なしければ、みづてりよりをさづけられ、さんじわ
ん、又此人かしやくを受け、どゝ者となり、此世は、された
もう、さんとす、又此人の科をもゆるし、力もゆるし、た
もはん力を、お〇い被下し、あばゝすところ、又此人の御とり
なしをなしければ、天の上でわばてり、ひーりよ、すびりと、
さんとの、御身のぐるり合にあたい被下しき、ひたすら頼
み上奉る。

あんめん、ぜずす。

T₁₈⁸
(29)ハ

○シクノオラツシヨ、死人ノミチビキ、人ノシクニツイタ
トキ、エコーニモクワエル

24

死にかくる人のさいごのときの、すゝめをなすべし、しん
じんに申上げたてまつる。みちのおんひかりにて、かならず、
てきに、したがひ、もふすな、たすかるみちは一つなりわく
れば三ツ、くずせば七ツ、ウスベンジャノふねに乗り、ゴー
ベーサンノつなをとり、おうひろいそに、さをゝさし、サン

ペートルさま、サンパウロさま、サントサガラ、メントーさ
まのおかげをもって、天のバライゾの、みなとに、つきたも
ふ、いっさつのごもんを、ひらかせ、たまいてバライゾノウ
チに、入らせたまふおんことなり、サンペートルさま、サン
パウロさま、サント・サガラメントーさまの、ローソク一本
のその火のお火の光をもって、天のゴアンジョさまを、御い
つたいにあまくだせたまいて、御母サンタマリヤさま、御
子ヒーリユウさまを、あきらかに、おがませくだされます
ように、つゝしんで、たのみあげたてまつる。アメン
ヒトノシクニ、ツイタトキ。死人のミチビキ、エコーニモ、
クワエル。

T₁₉⁹
(30)

(二十九)

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

○痛み悲み涙のくるしみの人のために

この人、じつしやうなる人、すぐてんぐの手に、わたりも
うさざるうちに、みちの、テイタ、さまに、しつかと手渡し、
たのみ、たてまつる、バライゾのくるぎも、ゆるしたまへ、
ヤアオロサの、てらゆきや、サンタマリヤさま、このひとを、
そばちかくに、おんひきあげ、たすけ、くだされ、ひとえに、
ねがい、たてまつる。

T₂₀¹⁰
(31)

(三十七)

○サイゴノ水ヲ、ノマスルトキ

このひと、このよに、いきあるひとならば、三国いちのく
すりとして、どうぞ、このひと、ごくわいふく、させて、く
ださい、このよに、いきなきひとならば、この、うきぐるし
の、ハツヲ、さいごの水として、あなたの、おそばに、ひき
あげ、おんたすけくだされ、ひとえに、ねがい、たてまつ
る、アメン

T₂₁¹¹
(32)

(三十八)

○サイゴノカケ水

(死ぬるときにかける)

二九三

死人に、かけ水するときは死人の名をいふ、このうきぐるしのハツラが、さいごの、かけ水として、みちの、テイタ様に、しつかと、御手わたし、たのみ、たてまつるアーメン

T₂₂
(33)

(三十九)

。ヒキオコシ死人のタメニ（棺におさむる時の祈り）

56

あだいそがしや、このせかい、われ、ねんじするならば、ごさは、みくわん、きものは、一枚、みは、すなわち、死人なり、わすれたや、グロリアの、みちを、わすれたや、われは、せねども、あんだりとさまに、手をひかれ、アングコンブのパライゾに、なにがしベヤト、あきらかに、手に手にとりて、おんひきあげ、たすけ、くだされ、ひとゑに、ねがい、たてまつる、アメン

T₂₃
(34)

(四十)

。死シテ、カドラ出ストキ。

みすて、かどすて、すておいて、つゝみちからだ、はこべなりなり

T₂₄
(35)

(四十一)

。死シテ、イケニ、オサムルトキ（墓にうずめる時）

58

にんげんは、つちのちり、みづ、あぶら、しを、よつのあぶらで、かためしもの、ししてたましいは、てんにのぼり、のこりし、にくしんは、もとの、つちにとどします、アメンといふて、いしにふきかけて、なげこみなさい。

T₂₅
(36)

生き生レ、ケレンドノサキニクワエル

（洗礼をする時に用いる）

19

(三) ありま、一本つくり出すはちつしうなり、このありま、なんといふべやとにつきもうしてござる、おんみゼズのおん子、いちふんとおぼしめされて、しやばにとりゆうのあいだ、とん死、とん病、あくさいなんを、おんしのぎもうすように、天のおんあるじ、おんみゼズさまに、つゝしんでひとゑに、ねがいたてまつる。アメン

T₂₆
(37)

(四)

。カラダキヨメセツノイノリ、天ニマシマスノサキニ

（洗礼をする時、水方からだをきよめる時）

20

今日のおねがいのさは、しやばにありまの子できまして、むすこの子でござる。バプウチイズモの、みづをさすけて、

くだされますように、おぢひをもつて、ばんじに、かのふて、
くださるうに、しやばに出来ました、むすこの子の、三日
めの、おさつつけの、うつたちに、天にまします五十三べん、
天の御三本様、サンジワンさまに、つゝしんでおんたのみあ
げたてまつる。

T₂₉
(38)
(四十四)

○パライゾノヒラキコレハイノリ、オワリニカナラズトナ 61

エル

ばらいそと申するは、天月屋 ^{ツキホシ} もろくのあんじよ、ペヤ
と、デウスを、ちきと、みたてまつりて、かぎりなき、おん
よるこびを、こつむるところなり、いんべるのもつするは、
だいちのそのの、くらき、ところ、もろくのてんくまた
てんく、に、したがいたる、にんげんのアニマ、かぎりなき、
くるしみを、うくるところなり、さまだぎやうじや、三ツの、
てきあり一ツは、このみ、二ツは、このせかい、だいに、
いたすこと、三ツは、てんぐこれなり、いかにおんあるじ、
ゼズスクリスト十字架の、ごくりきをもつて、この三ツの、
てきに、したがわざらんよ、おんちからを、そえたまえ、つ
ゝしんでたのみあげ、たてまつる、アメン

長崎県黒崎に於けるクリシタンのオラシヨ

Ta₆
(39) 死人ノエーコーウラツシヨ、アベマリヤー

あーベマルヤガラシヤベなどめでーコペらつとつよいも5
のいれぶつゑきれなれつぐろんつれんけれぶつテウスサンタ
マルヤひびりごモツテ天天にやほらくらんにやげんが鳥屋の
なんきのーつるアンメデウス

T₃₀
(40)
(十)

○アベマリヤ、死人ニゴエコウ五十三べん。

あべまりや、からしやべにや、どめでん、べらつと、つう
よう、いーもの、いれふつ、いきれなれ、つぐろんつ、べん
けれつ、ゼズサンタマリヤ、びりご、もつちや、てんでく
ほーらくらんの、ぎんの、とりやの、なんき、なんずる、ゼ
ズスアメン
死人ニ、ゴエコー五十三べん。

S₅
(41) あーペーまるや

あーペーまるやー、がーしゃーペーなー、どーめー、れー16
くー、べれつと、つーよー、いーものいりぐつ、ゑきれんじ

やの、つーぐーろー、つーべんけー、ぜーずーすー、さんた
ーまるやー、びりごーまん、にやー、デンデンデーの、ほー
らく、らんやー、げんきの、とーりー、ぎーもりもり、な
んきー、もんづら、あんめん、ぜずす

H₁
(42) アベマリヤ (死人に)

1

アベマリヤ、ガラツシヤペーナー、ドメデコ、ピロツツ
ヨー、イーモンヨルベキ、キレナツトウロン、ツーベンケレ
ツト、ゼース、サンタマリヤ、ツーゴモテレロロ、ウゲツテ、
テンテンホウクラシノギンギントリヤノナンキーナントラ
ン

Ta₇
(43)

(一) どそん

御身おんみせずきりしと、御世出せしよ、ゆらる、○五百九十一年め1
の、こんばやの、はちりやの、あほうすとろ、さんつゝの、
御てうほうニよりて、十四代目の、ばあば、けれこうろ、よのそ
のと、となぬ、王たまいて、ととなぬて、こんた、いまじような
らば、べろうにか、くるす、あぬす、でう、えちぬさあ、の
くりき、次第、右之内、いづれなるとも、ぬつしよ、まち、
めざめならば、おきあがる時、うやまる、をもって、びりち
いだ、ちりさんだ、

(二)

ちりだつの、くりき、上のくりき、ちりだあでうのくりき
と、とまる、たまゐと、となぬて、其の、ふもとに、をちざ
る様に、ねんぐわんし、どそんの、きりしたん、だあで
の、上うへも、でうすに、たのみ、奉らば、もと、半分の、御ゆ
るしを、こーもんなり、是レ、しする人、一人の身に、ゑこ
し、するに、於テは、ありま、一本ほん、めしあげ、玉うものな
り。

(三)

御身せず、きりしと、人と、なし玉う、このご、ごさきよ
う、の、御うやまゐを、もつて、ぜずすの、おんな、三十三
べん、となぬ、奉らば、どそんの、きりしたん、だあでの、
上も、でうすに、たのみ、奉らば、もと、半分の、おん、ゆ
るしを、こう、もるなり、是れ、しする人、一人の、身に、
ゑこう、するに、おゐては、ありま、一本、めしあげ玉うも
のなり。

(四)

びりせん、さんた、まるや、しをくに、まします、御所ととろ
たゐし、玉ゐて、あべまるや、九へん、さる、ペーちな、一
べん、申上れば、あんじよの、子、おろすに、たゐし、玉ゐ
て、あべまるや、九へん、ばあてゐる、のーしてゐる、一べん、

もらし、ゑでつの、きりしたん、たーでの、上も、どうすに、たのみ、奉らば、もと、半分の、御ゆるしを、こーも、るなり、是れ、しする、人、一人の身ニ、ゑこうするに、於ては、ありま、一本、めし上げ玉うものなり

(五)

どーまの、さんた、ゑきれぢやの、御身と^{ところろ}志し、余の、あぼすところ、又は^{また}、もろ／＼の、ペヤと様、うらしよつ、あべまるや、十二へん、けれんど、一ぺん、申上れば、其の、ありま一本半分の、おん、ゆるしを、こうもるなり、右三нга、ぢゆうに、見ゑし、さんちぢま、ちりーだーで、ぜす、きりしと、ペヤと、其の、うらしよを、一日の、内に、よくつとめば、右ちよー／＼くりきを、一渡に、うけ奉る。ゐづれ、ぜんぢや、べれなるやをこーもるなり、右三нга、ぢゆの、うらしよとゆうわ、あべまるや三十三べん、ぜすのをんも、三十三べん、けれんど、二へんば、ばーてる、のーすてる、一へんに、きわまる、なり、こんびさん、を申すに、於ては、さだめ、もとの、きゅめーに、をなぢ、ばーてる、のーすてる、三べん、あべまるや、三べん、申し、ろーまの、らくちゅ、らくつくわぬ、ぬき、たる人、し々たる、人の身に、さだめ、をき玉う、程の、御くりきを、こーもるなり、

(六)

めぬぞを、をがむ、ならば、をこのーならば、よーゆれ、しちやを、うけ、奉る、どーまの、さんた、ゑきれん、ぢやの、御身と、どそのの、きりしたん、だーでの、うゑも、でうすに、たのみ、奉らば、たびごとに、ゐづれ、ぜんぢやべれなるやを、こーもる、なり、この、こんた、ゐまぢよ、ゐづれ、ゐろよ、ある、べき、処ニ^{ところ}さんける、して、どそのの、きり、したん、だーでに、志して、ころを、一くれ、申ばどーま、〇らくちゅ、らくつくわぬ、ぬきたる人、したる人の、身にさだめ、をき、玉う程の、御くりきを、こーもる、なり

(七)

こめ、もらさんと、それ／＼にさだ、まつたるうらしよを、よみ、玉う、日ニ、あたりてさんた、ゑきれん、ぢやの、つかかさどき、ゆう、めぬし、またわ、其のた、ありま、のさゐばぬし、玉う、人の、身に、めぬを、ぞーを、をこのー、ならば、をがみ、奉るに、於ては、ゐづれ、ぜんぢや、べれなるやを、こーもるなり、ゐづれの、道より、どそのの、きりしたん、だーで、はんちよー、あるよーに、ちからを、そゆる、ならば、その国ニわたりてこん、べき、すべきと、をもぬ、さだむるに於ては、その国ニとかぬを、せんと、思ひ、たつよーに、人の、心を、をこし王ひとたびごとに、

ゐづれ、ぜんぢや、べれなるやをこゝもるなり

(八)

ぜんぢよの、国にて、御となゐを、ひろめ、しするまで、其道に、とゞけ、きりしたん、だーての、ために、身を、をします、ふーぎ、たゞしし、人ならば、ばーてる、のーすてゐる、七べん、あべまるや、七へん、申、ありま、一本めしあげ、王う、ものなり、ゐづれの、ゑきれーぢやの右之内、一しよ、あるべき、所にさん、けゐして御身、ぜすゝの、御手、御足、御口、御わき、御うしろの、御きず、に、たゐし、玉ゐて、どーまの、らくちゆ、らくわゐ、ゐきたる、人しゝたる人の、身に、さだめ、おき、玉うはとの、御くりきを、こゝもるなり。

(九)

その、さんた、くるすの、御くりきをばさま、より申受、られし、人の身に、めゐ、ぞーを、をふの、ならば、をがみ、奉るに、をゐては、ゐづぜんぢや、べれなるやを、こゝもるなり、ゐづれの、ゑきれんぢやの、かべらより、ゐだにても、あるしよの、所の、ゆわゐ、たんやよりあくゐ、しよーにちの、くれまでの、内に、七へんけうするに、於ては、ゆるしたる、しびりようを、ふゝもるなり。みわでらゐ、ならばなつたる、道にても、しするほどの、なんぎの、及び、たびごとに、せ

ずすとなゐ、奉らば、ある程、もとつたら、したる、御ゆるしをこゝもるなり

(十)

たとゑ、はっぱより、よの、こんためしあげ、玉うと、ゆうとも、ぶんにち、は、その、こんた、となゐをさして、をうせ、ゐだされしに、於て、御くりき、かわること、ある、べからず、其の、御くりきをなわつたる、もんの、ゐししよ、めをきたり、うんしよわ、たとゑ、たゐばに、及び、たつせつに、たつた日、そうゐん、するとも、御くりき、すたる、こと、あるべからず、その、こんたを、はぢめ、として、身に、あらん、そうどうの、内にても、あるならば、あわれならば、へどわ、其の、かどをと、さだまつる、こと右、ちようゝの内にても、ころわ、とわるわ、五十べん、申しても、どうぜんなり、たとゑ、よのうらしよ、を、申しても、をがみおこのうと、ゆうとも、どうぜん、くりきと、あるもんの、をのゝゐぢよ

T₃₁
(44)

(三十五)

○子供が眠病の節ニワ水ハツヲ

天の御主様にウキグルシの、ハツヲとして、あげて、ねが

いさげて。

そもそもでうすごかんきやう、なされたもふ、すゑのまな
こは、あきらかに、ひきはらい、くだされ、ひとゑに、ねが
い、たてまつる、

ソノハツヲ、クチニ、クワエテ、ミギノオラツシヨ、ナン
ベンモ、イフテ、子供の目ニ、カミヲ、アテ、ブツカケル
ベシ、但シ、三ベン。

T₃₂
(45) ○アマゴイニワ、テンニマシマス五十三ベンサンフランシス 65

コ様に、タノム

T₃₃
(46) ○船カラ出ルトキニワ、テンニマシマス、五十三ベン、サン 66

ペートロ、サンパウロ、サンノレンソニ、ツトム

T₃₄
(47) ○(三十四)

ルデーナサマ、目の祈り。

うやまつてもうす、でうすのあんじよ、てんのごはいてん、
われすこし、まぶるとも、ちゑの、まなこを、ありやかに、
ばんじをぶじに、まぶるみちびき、さめたまえと、つゝしん

50

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

で、たのみあげ、たてまつる、アメン
三ベントナエ、三ベンふく。

T₃₅
(48) ○フシンノタノミワ、マルヤ、コンシン。

74

T₃₆
(49) ○ゴサンノ、タノミワ、サンタ、マリヤ様ニ、

73

T₃₇
(50) ○イエ、サクジ、シテノタノミワ、サンノコウスメ様ニ、

75

オハツヲワ、ゼズ、サマニアゲテ、サンノコウスメサマニ
モ、クワエ、ゼズ様ニ一座、ニウスメ様ニ一座、

T₃₈
(51) ○漁ヲタノム、三バクルス、アバグルス、マグルスニ、タノム 76

T₃₉
(52) ○(二十八)

○船カラ出ル時、サンペトロ。

うきみの、くるす、すべりあるなり、此の船は、サンノレ
ンソさまのごさふねにて、だんぶーだかん、おだやかに、も
との、らんかに、おんつけたもふように、つゝしんでたの

44

二九九

みあげたてまつる アメン

T₄₃
(57)
(二十五)

○夜る床ニツクトキ

41

T₄₁
(54)
。ムラカタグワンニワ、テンニマシマス五十三ベン。オワリ63

ニワ、オンレイ百三ベン。オンミサマノオラッショ一ペン、オ
ントリツギニ、一座。

T₄₂
(55)
ムラカタグワンノウツタチ

72

。天にまします五十三ベン、おんみ、ゼズさまに、むら
かたぐわんの、おわりには、がらっさでおんれい、百三べん
に、おんみさまの、おらしよ、一べんくわえるおやくの、か
たに、五十三ベンもうします。

H₂
(5.)
ねる時のウラシヨ

ござみかん、きものはふかん、まぐらはくろす、そのみは
ねしみ、ありまはデウスにたのみたてまつる

Tk₄
(59)
めしいたたく時

4

Tk₃
(56)
ぬるときのおらしよ

3

太つ時よをカリさがらめんとふござくわんまぐらわ黒すき
る物わふ太にしてそのみわねじみひ太るともありまわ四五の
御あんじょ様にさくけ奉あめん

天主ばあてるひいりよすべるとさんと三つのべる惣な御一
たいの天主様力太じけなくもそのしく物ヲわれらが上にもべ
んさを与給あめんせずす

T₄₄
(60)

(四十五)

○ユメケシ

ユメケシ、オソロシキ、ユメホド、ナンベンモモース。
ユメラミテ、ユメラミタ、三七、二十一日ニ、カタラズ、
バテンジクノ、バクノオンマエニ、ブクラ、マイラセ、マク
ラノ、シタニ、タマテバコ、アケテ、見タラバ、ナニモゴザ
ラス。

61

T₄₆
(63)

(三十三)

○草ヲ吹ク祈リ

いどのまるやの、しんちゅうは、かるゝ、やくる、はつる
よし、このくさのねを、きつて、はの、かるゝように、おん
はからいを、つゝしんでたのみあげたてまつる、

三ドイフテ、三ドフク

49

T₄₅
(61)

(二十六)

○オソロシキ所ヲトールトキ

ダイテスダ
大天狗、くそこ、たちのけろ、このみちは、どうすのみ
ち、おんみさまの、みことばを、もつて、とうらすぞ。三ベ
んとのふ

42

T₄₇
(64)

(三十一)

○サントースサマの祈リ

あべはあてる、てようひりよ、てようばあてる、あべさつ、
ほんさつ、すぴりとさんと、あべてんぼろ、十七りん、たあ
て、てーねーぜじん、はははろて、はは、もろて、はろりさ
んのしま、まわりちりゝさんのもうり、アメン

47

S₆
(62)

悪沼はらい

どうす、ばーてる、どうす、ひーりよ、どうす、すべりと
さんとの、みつのべれそーなにて、一つも、しゅす、いーな
も、しゅす、いのぶの、ばーてる、いでひーりよ、どよばー
てる、あんめん、ぜすす。

13

T₄₈
(65)

(三十)

○イナツショサマノ、イノリ

ばんじかないたもふ、おんみの、ごふかん、サントイナツ
ショさまは、いくさの、しゅいに、たちいりさせ、たまいて、

46

スペリキの大將は、しらいしやうに、しらい、たてまつる。
げかいでは、きずを、こうむり、天の上では、ごさんぼう
の、くらいをうけ、てんをあづかりさせたもふ、ように、つ
ゝしんでたのみあげたてまつる、アメン

T₄₉
(68) 枯松様の三日め

。おんみゼズさまに一座、枯松様に一座、おんれい

15

S₇
(87) 御タン生

べれんの国の御馬屋^{ウマヤ}で御生れなさった、御若君は、今は何^{いづ}
所にてましますや。ほめたつたまへ、たまい、

ほめたつたまへ、たまい、あんめん、ぜずす。

7

T₅₀
(68) (二十七)

。御タン生バンワ、コノ祈リヲスル。

43

べれんのくに、おうまやに、御生れなさった、御若君様、
今は、いづこに、ましますか、ほめたつとめ、たまえ、おん

T₅₁
(69)

(十二)

。アネースデーサマ

ほめたつとまいたまへアメン、
ゴタンデョーバンハ、一座ニ、百八十ぺん上ツトム、ヨリ
月ノアルトキワ、二百ぺんノ上ツトム。

あねー、すでーさまの、くりき、四代五代めの、はっぱ、
おろはの、コンスタンチのほらといゆ、ところの、くりき、
そのくりき、おんくりき、よに、かゝつてのくりき、コステ
ルとなを、つけ、たてまつる、おんみのくりきとは、ことわ
りとのこと、おんま、だーでーおんところを、あらわせ、た
もふ、ならば、いかづち、ならば、おほかぜ、ゑきびよう、
とん死、そのほか、いかなる、うつりやすき、やまい、なり
とも、またわ、こことの、だいするところの、だいくりきを、
こめたもふ、ものなり。三ツではあくかせ、ゑきびよう、と
ん死、そのほか、いかなる、うつりやすき、やまいにても、
ごくりきの、おんちからを、もって、あくびよう、さいなん
を、おんしのき、もうすよーに、だいくりきを、こめたもふ、
ものなり、

四ツでわ、おんみ、でうすの、なんさんに、およぶ、はゝ、
また、子供に、つゝがなく、あとを、まもらせ、たもふ、

五ツでは、てんたの、さまたげ、またわ、なんたる、てんたさん、アニマ、しきしん、てきやん、なさる、ばんの、しゅうげんを、のがしたまえ、おんくりきを、こめたもふ、ものなり、

六ツでわ、ごくりきのものの、したしとして、ばっぱの、おんとなえ、おんようものをもつて、あきらかに、あらわすこと、これらの、くりきと、あけて、かぞうべからず、これじつしゃうのひいれつにうけたてまつる、げんきよう、ころあり、ひとびとのところで、しること、ひととして、このくりきを、おぼえざること、その、ひとの、ごくりきと、おぼしめすより、ばんじ、おんおや、さまよりおんみで、ござなく、でうす、かくのごとくに、はからいたもふ、おんぜんすべき、おんよりものをもつてきたる、五百九十一年めの、つかさにおいては、すべりようれつ、おんゆるしをこうむるなり、このぎよりアメンゼズ

病人の、グワンキニハ、コレニ、コンヂリサンヲ、クワエ
テツトム。

T⁵²₍₇₀₎。病人ノ、グワンキニハ、ヒダリニ、カイタノヲ、ササゲル。28

とん死、とん死、あくさいなん、いかなる、うつりやす

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

き、やまいにても、アネースデーさまの、ごくりきをもつて、かぜをはなし、病氣、御全快させてくだされますように、サントサガラメントウさま、アネースデーさまに、つゝしんで、おんたのみあげたてまつる。

T⁵³₍₇₁₎。病人ノグワンキニワ、アネースデーサマニ、コンヂリサン
ヲ、クワエ、サント、サガラメントーサマニ、アネースデー
サマニ、タノム

H³₍₇₂₎ “アネースデーサマ” (口誦)

アネースデーサマのくりき四代五代ハツパウロウフコンスタ
ンチそらというところのくりき、おんくりきよにかかつての
くりきコルテートナをつけたてまつる。おんくりきのことわ
りとのこと、おんわれだーてるおんところよりあらはせて
まつる。なあらば、いかづち、なあらば、おうかせげきりよう
と、またはごとのだいするところの大くりきをこめたも
ものなり、三つにはあつかせいきれいとうそのほかいかなる
うつりやすくやまいなるといふとも、たいするところのだい
くりきをこめたもものなり。四つにはオンゼウスラマザン
におよび、母このこともにちちなこまぶらせたもつ、五つには

てんとありまのきしんのしゆうこうのぼらせたまう、六つにははつばのおんとないたもういうものは あきらかにあらわるることのこれらのくりきあげてかそうべからずと、これじつしようのヒーデスうけたてまつる。げんきよ心ある人々の心のうちにしるごとく、なおその人のみぎりつと万事はよくしらすべし、おんうえよりわれらのおんみんでましますかくのごとくにはからいたもう、こんじんさぶきもんなり、きたるごひやく十一人のつかさにおいては、スベルヨレツのおんゆるしをこうもるなり、このぎりアーメンゼツウス

Ta₈
(73) アネースデ様のウラツシヨ

15

アネースデー様のくりき、四代^{ダイ}五代のハツパオロハノ、こんち、たんち、ほらと言ふ^{とちう}処の、くりき、其のくりき、御くりき、世にかかつての、くりき、こすてると言ふ名を付け奉る。御身のくりきはことわれとの事、オンマードーデー御処よりあらわせ給ふ。なーらばいかづち、なーらば、あつかせ、エキーレトンスル、其の外いかなる、うつりやーきやばんなるとは言へど、又はことこのだいする処^{ダイ}大くりきこめ給ふ。むっでは御くりきもんの、したしとして、ハツバオントない給いて、御んようものをもって、明^{アカカ}にあらはす者なり、これ等のくりき、あけて、かどうべからず、これじせうのひーれ

つとしてげんきようこゝろ有りひとひとの心でも知る如く、ひときとして、此のくりきはおぼへざる事、あんなは其の人の御くりきと、思^{オホメ}し召しより、ばんち御親様より、御身で御坐^ザなくデウス^{デウス}の如くはからい給ふごんせんすべき様でよう者を以て、きたる、五百九十一年目のつかさね、おいて、スベリヨーネツの御ゆるしをこーもんなりこのぎよりアーメンゼス

S₈
(74) あねすてー様

14

あねすてー様のくりき、四だい五だいの、あつばうら、こんち、たんちの、ほらと言ふ、処のくりき、御くりき、其くりき、よに掛つてのくりき、こりてると、名をつけ奉る。御まに、だあて、御処^{とちう}に、あらはせ奉る。ならば、いかづち、ならば、おーかせ、けーろー共又は、こーとの、たいする処の、たいくりきを、こめたもう、ものなり。三つではあつかぜー、きれー、とんちするとも、其外うつりやすき病ひなるをば、あねすてー様の、御くりき、を以て、ぬかせたまう。たいくりきを、こめたもう、ものなり。四つでは、御ようものを以て、御身でうす、万ざいにて、およぶ母又此の子供にて、つゝがの国を、守らせ、たもーものなり。

五つでは、てんたのさまたげ、又は、なんたる、てんた、

さい、ありましきしんでき、よんなる、処の、しゆるけんを、
以て、ぬがさせ、たもう。たいくりきを、こめたもう、もの
なり。

六つでは、もんと、したちとして、あっぱの御とない、
たない、おんようものを、以て、あきらかに、あけてかぞー
おーべかなわす、是実証に、ひしでつ、あり、元氣よう心あ
る、しときとして心の知ること只しときとして、此のくりき
を、覚えざること、是尚人の、みくりきとして、思し召す、
身より、万事は、よくしらしめす御上より、ござます、ぜす
うす、如此にはからい、たまいて、ばんぜすうす、すべき物也。
おんいでもうもの、を以て、来る、処に五百九十一人目のつか
さにおいて、すべりようでつの、御ゆるしをこうものなり。
此儀 如何に屯知あきひよー、れきりよーを以て、是程う
つり安き病ひ、なるをは、あねすてー様の、御くりきを以て、
ぬがさせたもう、たいくりきを、こめたもう、ものなり

あんめんぜす

T⁸⁵
(75)

ひざまづき、オタケニサンバイ。

ひざまづき、手を合せ、天に、むかつて申すべし、よわた
ぐいま、われわきまえ、しる、がらっさたびたまえ、アニマ

48

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

Ta₉
(76)

ひざまづきのウラシヨ

をもつて、二ツのりゆうを、知ることく、これ、一ツ、かた
じけなくも、天地に、あらゆるほどの、ものども、われわれ
に、つかわさる、人がため、天地世を、つくり、いっさい、
にんげんを住に、おきたまい、月星を初として、しんらばん
ぞう、うゑをみるみ、月、おのれ、おのれのやくぎを、たし
かに、つとめ、おくこそ、いまは、われ、てんのごおんもし
らずして、てんとは、もてなく、わざを、しあんす、いまは、
わがみに、かえるべきこそ、ろうまのくに、さんたえきれん
じやの、サンドメーゴスさまのいつゝなる、たんのごめーざ
んの、おんは、サンタマリヤ、さまの、おめしになさる、お
ともの、ごにんずのうちに、おんとりあげて、めしくわえ、
たまへと、つゝしんでたのみあげたてまつる。アンメイゼズ
ス、オタケニ、サンバイ。

ひざまづきに手を合せ天に向つて申すべし世は只今我れわ
きまへ知るガラツサたび給へアリマを以つて二ツのリユを知
る如く此れ一ツもかたじけなくも天地にあらゆる程な者共我
れ我れつかわさる、にんがため天地よーをつく一っさいの
人間を自由におき給いて月ほしをはじめとしてしんだまんど
うの上を見るに付おのれおのれの役義をたしかにつとめおき

今は我等天の御恩を知らずとして天王むてなくわざをしあん
す今は我が見にかへりめつこと有りドウマンノサントエキレ
ーヂャのサンのドメーゴス様ノ五ツナルタンのゴメーザンノ
御母サントマルヤ様の御メーリなさった御共の御にーぢの中
に召しくわへられ下被れ申す様にアーメン

おんみ様のウラシヨ

Ta₁₀
(77)

弥之助 サンドメードノ

竜蔵ノ マチャスドノ

コメノ ドメーガス女

シメー子供ー亡名

十吉ノ サンドメードノ

コメノ マルヤ女

一郎ノ バシチャンドノ

カエー亡き子供ー亡名

サモー マルヤ女

永田熊石問 サンドメ

永田弥十 サンデワシ

真市 イナツシヨドノ

ソイ ガランサ女

豊 サン・ペートロ

之助 パウロ

20

リユウ ガラッサ

たすかりの道は一つなりあくれば三ツくすせば七ツウスベ
リ様のつな渡りコーベ様さをさし此の日本

ザシキ

コスドメガス

大森源左衛門光国

行年四十二才一月七日(死去)

一兵ノ部

サントメー

坂口佐平春国

行年三十一才

サンジワン

中川新左衛門春吉

行年四十五才

十一月三日死去

シメ 子 亡名

ミチヨ マダレナ

永田浜口

イツ ドメガス

マサカズ ノレンソ

有田政一 ノレンソ

田川武助 サンジワン

田中豊 ペートロ

田中ヤエ マリヤ

H₄
(78) ダケのウラシヨ (口誦)

(ヒザマヅキのウラシヨ)

ひざまづきにてお合いし、てんにむかつても―すべきよう、
ただいまわれわきまえしるがらつきたたまえ、アリマはも
つて、二つのリュウをしるごとく、これ一つかたじけなくも、
天地あらゆるほどのものどもは、われわれにつかわさる人が
ため天地世をつくり、一切人間を住におきたまいて、月星を
はじめとして、しんらまんぞううえをみるみ、つきをたしか
にあくぎをつとめ、われは天の御恩も知らずして、てんとは
もてなくわざをしあんす、いまわがみにかえるべきこと、ど
―まのサンタエケレンジャのサントドメゴスさまのいつつな
る、たんのごめいざんのお母サンタマリヤさまのおまえにな
さろうとも、ごにんずのうちに、めしくわえさせくだされま
すようにつつしんでたのみあげたてまつる。あーめんジェズ
ウス

4

Tk₄
(79)

御ばっしょ

うやまって申 いかに 御主ぜすきりしと御みは一才人げ
んを太すけ太まわんが太めにむまれ給、しるクシさんを受こ
らへ、しだあらよりもあなづられむはん人の十だつよりわ
てきかてにわ太され、からめられながら御とがまシませずし
て、ひつじのこふむしゃきりひむがごとく ひくがごとくに
ひかれ給 あなうはす力あはすヒらあどすよりよろうでつが
前にて そそうにあつかわれ つばきをは力けられ御力をう
太れ竹ニてちようちやくせられ ちちやくちじよくを受こ
らぬ御幸べにわいばらの力もりをい太だきくるすにうちき
つけをし太でられながらぬす人の内にくわへられ すとにが
物を あじわい給いて御わきやにてとふされ いかに御主ぜ
すきりしとそのくりきにわをよひ奉らんといゑども 只今
ちながすところ太とき 御ばっしょの御きつう太つ時みぐ
るすの御きしょうとふをもつてあく人なるわれをいぬへり
のくげんをのがして太のみ奉、御みとともにくるすにかかシ
シときぬす人も道びき給がごとくあく人なるわれをも道び
き太まへと太のみ奉、御みばあてるひいりよすべるとさんと
とても天主にまします いつまでも天のみよををさめ給へあ
めんぜすす

T⁵⁵
(80)

(十九) ○ゴバツシヨノ、ニ、コレワカナシミノマンナ35
カヨリ、サキニツトム。

うやまつて、もうす、いかに、おんあるじ、ゼズス、キリスト、おんみ、さまは、いっさいの、人間を、助け給わん、ために、うまれ、たまひ、シルコンシサンを、うけこらえ、ジュダイらよりは、あなどられ、むほんにんの、十達よりは、敵の手に、渡され、からめ、とられ、ながら、おんとが、ましまさずして、ひつじの子の如く、シヤキリヒシヤの如くに、ひかれたもつ、ものなり、アナハス、カイハス、ピラアトツ、ヨローデツの、まえにてそゝうに、あつかわれ、ちようちやく、かちよくを、うけこらえ、いつわりの、しやうこにんより、うったえられ、おんかをを、うたれ、竹にて、ちようちやくせられ、つばきを、はきかけ、られながら、おんこうべには、いばらのかむりを、いただき、十字架に、くぎつけ、おしたてられながら、ぬすびとの、うちに、くわえられ酢と、にがきものを、あじわいたもつ、ものなり、おんみ、おんわき、やりにて、とうされ、たまひし、ところに、いかに、おんあるじ、ゼズスキリシト、そのくりきには、およばざりと、いえども、われ、いま血ながし、たもふ、たつとき、ごばっしよの御苦痛、たつき御十字架、御死去とを、もつて、あくにんなる、われをも、インベルノの、くげんを、のがれ、させたまえ、おんみとともに、十字架に、かかりし盜

人をみちびき、たもう、ところに、悪人なる、われをも、みちびき、たまえと、つつしんで、たのみ、あげたてまつる。おんみ、パアテルも、スピリトサントも、みな、天主にて、ましませば、いつまでも、天の御世をも、おさめ、たもふ、ものなりアメン

S₉⁽⁸¹⁾ ごばっしよ
(朝夕のいのり、春仲后)

うやまつて申す、御身は、ただ一切の人間を、たすけたまはんが、ために、うまれさせたもつ。しろく四寸のうけごらい、いしでーらどもより、あなどられ、むふんじゅうの、十辰より、てきの手にわたされ、からめられながら、御とがまします。ひつじの、子も、たけべひんしやの如く、引くがごとくに、引かせたもつ、御事なり。あねーはす、けーはす、よろーでつ、ひらーとが、まいにて、すそをあつかはれ、いはりの、しやうこにんより、うったへられ、たけいで、ちじよくを、うけこらひ、つばきを、はっかけられ、ながら、ぬす人のうちに、くはいられ、人にがきものあじへーたまはれやと、御わけ、やりにて、とうされたもつ処に、いかに、おんなる、ぜす、キリスト、このぐくりきを、おひ奉らんとは、申せども、われち流したもつ処に、たつとき、ごばっしよ、ごきつう、みくるす、ごきしやう、とうを以て、いぬへん

の、くげんを、ぬがしたもう、御身おんみと、ともに、くるす、にかかり、ぬすびとも、みちびきたまはれやと、あくにん、われらも、みちびき、たまはれやと、つつしんで、おん、たのみ上げ、たてまつる。

(申し上げ)

でうす、ばーてる、でうすひーりよう、すびりと、さんとの、御身のぐるーり、やいに、あたひ、下されーき、ひたすら、おんたのみ、あげ奉る。あんめんぜす

T⁵⁶
(82)

(二十)。^{ゴツケ}御告の祈り。

カナシミノ、マンナカニツトム。

36

あんじよろす、あんじよろす、どうにや、どうにや、あんべ、あべまるや、よこせんびろ、ゑつに、スピリトサント、ゑーさんと、ただいまの、じぶんに、どうに、サンガムリエルと、もうす、アンジョを、もって、ごつげに、ありければ、すなわち、われに、あたひ、せぢようの、いきをいを、くだされし、^{デウス}天主の、ごあんじょしちう、サンタマリヤさま、ごけんめいに、ありしものなり、おんあるじは、ごげんじよなり、わがうゑの、みことばの、ごとく、はからいたもふ、おんみぜズス、ヒリョさま人と、生れたまい、あくにんの、に

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

んげんに、まじわり、たもふ、ものなり、アメンゼズス。
カナシミノ、マンナカニツトム。

Ta¹¹
(83)

御つうきのウラッシヨ

13

アンジョロスどうにや どうにや アンベ アベマルヤ
よこ千びろ、ゑつりすべると、三と、ゑーさんと、只今の自分
に、どうに、三がぶりゑると、申す、アンジョを以つて御
つうげにありければすなはち、我にあたへ、世上のいきをい
は下被れしデウスの御アンジョシジューサントマルヤ女御ジョけ
ーめに有りいし者なりオンナハジは、御げんじよなり、我が
上の御言葉の如く、はからひ給ふ。御身ゼズスヒイリユー様、
人と生れ給ひ悪人の人間にまじわり給ふ者なり。

T⁵⁷
(84) 春ノ入り

カナシミ入り旧二月三日

。ごつうげの日、かなしみの、まんなか、おはつを、あげ
てから、ゼズスさまに一座

中日 旧二月二十八日

おんはは、さんたまりやさま、さんのどめーごすさま、さ

13

んた、いなしよさまにごいっしよに、おんれい一座

春上り 旧三月十九日

T⁵⁸
(85)

(三十六) 。カナシミアガリノウタ、
但し三ベン。

52

ナミ、フカーミ、アブラキウルス、キエンナウンテ、コ
ンテシクロク、バアーテ、アンブノゼンゼンコンブ、ゼンゼ
ンロームネ。ラ、ムネ、チリメン、チリブツ、イケサント、
ハナノエゴロス、テデペデス、アメン

T⁵⁹
(86)

。カナシミノマンナカ

68

ゴツゲノ日、カナシミノマンナカ、オハツヲアゲテカラ、
ゼズサマニ、一座、オンハハ、サントマリヤサマ、サノ
ドメーゴスサマ、サント、イナシヨ様ニ、ゴイツシヨニ、オ
ンレイ一座

T⁶⁰
(87)

(十五) 。アサゴカジョー、オンヨロコビ。

月曜日 木曜日ニツトム。

31

第一、びるぜんサントマリヤ、サングブリエル、アルカン
ジョを、おんつうげを、こうむり、そのごたいないに、おい
て、でうすの、おん子、ヒリヨは、人となりたもうこと。
第二、びるぜんサントマリヤ、ごしんるいなる、サントイ
サベリヤの、ごしくしよに、おんみまいとして、おもむきた
もふこと。

第三、びるぜんサントマリヤ、おん子、キリシトを、ごた
んじようしたまふこと。

第四、おんははサントマリヤ、おん子、キリシトを、ごた
んじようより、四十日めに、デウスバアテルえ、ささげたも
ふこと。

第五、おんははサントマリヤ、おん子、キリシト、十二才
のおんとき、みうしない、たまい、ゼラレンのまどうに、
おいてがく、じやうらく、ごもんだうなされたまいしを、三
日目に、みつけたまふこと。アメンゼズ

T⁶¹
(88)

(十六) 。ヒルゴカジョーオンカナシミ。
ヒルノゴツゲ、火曜日金曜日ニツトム。

32

第一 おんあるじ、ゼズスキリシト、ゼツマニヤノもりのうちにて、おん、オラッショをなしたまい、おんちのあせをながしたもふこと。

第二 おんあるじゼズスキリシト、いしのはしらに、からめつけられ、五千に、あまる、ちようちやくを、うけたもふこと。

第三 おんあるじ、ゼズスキリシト、おんこうべに、いばらのかむりを、おしこまれ、たもふこと。

第四 おんあるじ、ゼズスキリシト、わが、かかりたもふべき十字架を、かたげ、カルワリウが、だけに、おもむきたもふこと。

第五 おんあるじ、ゼズスキリスト、カルワリウがだけに十字架にかかり、死したもふこと。

火曜日、金曜日にツトム。

S₁₀
(89)

御よろこび (春のあがり)

9

一つ、三日目には、もとのごしく所に、よみがやらせ、たもう時の御よろこび。

二つでは、おりべ天の山より、ご上天なされたもう時の御よろこび。

三つでは、みでしたちのご三人ご来こうなされたもう時

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラショ

の御よろこび。

四つでは、御母さんたまるや、さんの、ゐながら、ご上天なされたもう時の御よろこび。

五つでは、でうす、ばーてる、でうす、ひーりよ、みつの、べれそなも、祝にて、ころはの、かんもりを、ゑさせ、たもう時の御よろこび。

あんめん、せず。

T₆₂
(90)

(十七) 。ユウゴカジョー、ヒグレノゴツゲ。

水曜日土曜日ニツトム。

33

右百五十ぺんの祈禱ハ一日ニ申スベシ、アベマルヤ十ペ
ン、キリヤーペンツツノアイダニ、コノミステリヤス
一カンジョーヅツニアイノコトラユイタマツルベシ、
コノコトラツトムル、人々ハ、カズカズノゴウリヨク
ヲコームルベキモノナリ。

第一 おんあるじ、ゼズスキリスト、三日めに、もとのごに
くしんに、よみがえりたもうこと。

第二おんあるじ、ゼズスキリスト、四十日めには、おうい
なる、ごいこうをもつて、オリベトの山より、ごじょうてん、
なされたもふこと。

第三 おんあるじ、ゼズスキリスト、ごじょうてんより十

日目に、みでしちのうえに、ごらいこうなされたもふこと。

第四 おんはは、サンタマリヤ、おん、あにま、ごにくしんとともに、ごしょうてんなしたもふこと。

第五びるぜんサンタマリヤ、てんじやうにおいても三千^{チリ}里島、ちりんだ、でうす、ヒリヨのおんははにてまします、おんところにあたる、こうじやうは、ごこうひに、そなえられ、すぐれたる、ごぜんとくの、ごへんほうとして、グロリヤの、かんむりを、あたえまいらせられ、たもふことを、くわんじたてまつる、アメン、水曜日、土曜日にツトム。

右百五十^{オラッシヨ}ぺんの祈禱はどみごには一日に申すべし、アベマリヤ十ペン、キリヤ一ペンづつのおいだに、この、ミステリヤス、一たんじやうづつ、にあいの、ごをこいたてまつるべし、このことを、つとむる、ひとひとは、かずかずのごりよくを、こうむるべきものなり。

T₆₃
(91) (二十四) ○ 晝五ヶ条、ヒルノツゲ。

40

第一 若君ゼズスは、しるこん、しさんな、うけこらえ。

第二 若君ゼズスは、ゼルザレムの、川にてバプチズムの水を、さずかりたもふものなり。三日目

第三 若君ゼズスは、御三人の帝王より、おがまれたもふ

ものなり。十三日目

第四 若君ゼズスは、タボロガ山の、クロリヤのうちに、おんみ、すがたを、へんじたもふものなり。

第五若君ゼズスは、きんたひいりよ、さまの、つきめの、ごはんを、くだされし、たつときようかれひちに、こめたもふ、サントサガラメントーさまの、ほめたつとまいたまい、おんほめたつとまいたまい

Ta₁₂
(92)

御かなしみ

第一 御ある、ぜす、きりしと様、は、ぜせまるやの、森の内、すぎの大山に、ゐらっしゃる時、たかひさの、くわん、ねんより、御うらっしゃを、なされし、玉う時、御ちのあせを、ながし玉う時の御かなしみ。

第二 御ある、ぜす、きりしと様は、ざる人の、手にかかり、石の、柱に、からめ、られ、ながら、ごせうに、あまつての、ちようちやく、受け玉う時、御ちの、あせを、ながし玉う時の、御かなしみ。

第三 御ある、ぜす、きりしと様は、御こうべには、ゐげの、かもりを、ゐらせられ、玉う時、御ちの、あせを、ながし玉う、時の御かなしみ。

第四 御ある、ぜす、きりしと様は、わがかけられし、くる

すを、かたげ、かるわりゆ、が、たけに、おもむき玉う時、御ちの、あせを、ながし玉う時の、御かなしみ。

第五 御ある、せず、きりしと様は、かたげ、かるわりゆが、たけに、くるうすに、かかりしし玉う。

S₁₁
(93)

ごかちう(しもつき朝夕)

6

第一 若君せずすは、じるじゃれんの、川中で、ばうちー水を、さつたもう、御事なり。

第二 若君せずすは、しろく四寸の、うげこらい。

第三 若君せずすは、み国のてーをうたちに、おがみさせたもう御事なり。

第四 若君せずすは、たばーんの山の、ぐるーり、やいに御身すがたを、へんじさせたもう、御事なり。

第五 若君せずすは、きんた、ひいりよう、ごはんを、あたひ。たつとき、ようかの、ひちやの、さがらべんとう。ほめたつたまいたまい、ほめたつたまいたまい、あんめん、せずす。

Ta₁₃
(94)

御よろこび

3

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

一、三日目には、もとのごしくしよに、よみがやらせ、玉う時の御よろこび。

二ツでは、をりべ、てんの、山よりも、御上天、なされし、玉う時の御よろこび。

三ツでは、御三人の、みでし、たちの、御らゐ、こうを、なされし、玉う時の御よろこび。

四ツでは、御母、さんた、まるや様の、天に御上天、なされし、玉う時御よろこび。

五ツでは、でうす、ばーてる、でうす、ひーりゆ、すべりと、さんとの、みなを、もつて、ころはの、かんむりを、ゑさせられ、玉う時の御よろこびあめん

S₁₂
(95)

御かなしみ(朝夕)

8

第一 いかに、おんなる、せずすきりしと、せぜまるやの、もんの内に、入らっしゃるとき、たかんだアワンネン高札の願念に、おらっしゃを、なされたもう時、御血のあせを流したもう、御かなしみ。

第二 いかに、おんなる、せずすきりしと、いっさいの人間にんを、助けたまはんがために、石の柱にからめつけられながら、五千人にあまつての、ちようちやくを、あたいられたもう御かなしみ。

第三 おんなる、せずす、きりしと御こうべには、いげの

かもりを、おしこまれさせ、たもう時、御血流した御かなしみ。

第四 いかに、おんなる、ぜすすきりしと、わがかけし、くるすをかため、かるわりうが岳だけに、おもむき、たもう時、御血のあせをながしたもう、御かなしみ。

第五 いかに、おんなる、ぜすすきりしと、くるすにうちつけ、おしたてられ、くるすの上にて、死したもう。あんめん、ぜすす。

S₁₃
(96)

御みさま

10

いかに、おんなる、ぜすす、きりしと、万事に、くりきなき、つたなき、あく人なりとは申せども、かつかぎり、なき、あたひ被下くだされしき、御志し、かほどの、御恩も、何と云うにも、申上奉るべきようは、御身でうすの、御ひとりご、しんな、まんぞう、御身の、念願に、しるしあり、我が、ありま、を、助け、たまはんがために、一生がいの間、ごなんぎごへんぐ、しのび、たまへば、忝けなくも、かずくも、ちようご、ちようちやく、かしやく、をうけ、胸に、よくたい、あけの、ちしように、そめたまへば、くるすの上にて、御手おしたて、つくしたまへば、つよには、つたなき、悪人あくじんには、たいしたまいて、御命を捨てたもう、さても、有難や、御恩ゴエン

も心も、ことばも、およばざる、御大切な。御身にたいし、奉る。御身の御恩は、千一も報じ奉らん事、あらべからず、さり乍ら、べちに致す、うき世は、無之ムエき故、まつせつ、さい方さいし、けんぞく、日天世界は、たな心に握ると云う共、皆ことごとく、御身にささげ奉るとは、存すなり。其上御太切かな、御はまりのため、やくせんなんに、しのびあり、われにも、ささげ奉れば、たけの念願なり。われ悪人の、身として、いささかな善もなく、あのーこのー事かなはざる。只死するまでの、御奉公、たしかに、とどけ奉れば、ごころくを受け奉る。是ねがわくば、此のささげ物を、こーばしきとほいと、受取ウケトリたまいて、此のぞみを、ときたまへば、じんたくなる、がらつさをあたへ、被下ひくだらしき、ひたすら、頼み上奉る、あんめんぜすす。

T₆₄
(97)

(十八)。御受難オンシサマノ祈り、コレワカナシミウチ 34
ワ、イツデモツトム。
又、天ノ御アルヂ様ニ、グワンカケタトキワ、シマイニ
一ペンクワエル。

御身ゼズスクリストの御前にて万事功力なきつたなき悪人なりとは、いえ共数限りなく与え被下くだされ御心差御恩の御礼を申上げ奉るに心も言葉も及ぶものなし分けて御受難の御礼をど

の様に申上奉る可や、御身天帝バアテルの其御一人子臣等万
蔵御身に、にんがいの印あり、我アニマをたすけたまわんた
めに、にんがいを、うけあわせ御言葉と御しよさをもつて天
の道を教えたまわんために、一生がいのあいだ御難儀、御ひ
ん苦を凌ぎ給え、忝じけなくも数々のちようちやく、かしや
くを受けたまえ、むいに玉体を紅の血塩に染めたまい十字架
の上に御血をしたため、つくしたまいに終には拙なき悪人に
対し給い御命を捨て給ふ。さて有難き御恩心も言葉も及ば
ざる御大切な、斯程の御恩いか様に報し奉る可や、たとえ
御身に對し奉りて生命は千度百度捧げ奉るとも御恩の万が一
も報し奉る事あるべからず、さりながら別に致すべき様は無
き故先御奉公として、せつ財宝妻子けんぞくを、たとえ、一
天世界を掌の中に握る共皆忝く御身に捧げ奉らんと存するな
り、その上御身の御大切御栄誉のため、百千難おも凌ぎ、我
が生命を献け奉りたき念願なり、我等悪人の身として、いさ
さかの善おもなし行ふ事、あたわず只計なき御身の御あわれ
みに頼をかけ奉りて死する迄御身の御功德に、たしかに、と
どき奉る様に御合力を、たのみ奉る。是願くば此献物を、か
んばしき香として受取り給いて此のぞみを、とげ奉らん、た
めにじゅんたくなる、がらさを与え給えと、ひたすら頼み奉
る、アメン

コレワ、カナシミウチワ、イツデモツトム、又天の御アル
ジサマニ、グワンカケタトキワシマイニ一ペンクワエル。

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

TK₅
(98)

けれんどおらしよ

ばんじかなゑ給ヲ天地より造り給へ、御おや天主の御ひと
りにてましますいかに御主ぜすきり人まことにしんシ奉
すべりとさんとの御きとくヲ以てやどらせ給へてびる前丸屋
よりうまされせ給はんしや平とうが下においてモカシヤク受
コラエクルすにカカリシ給石ノみクワンニオサメラレ大地
ノそコニクダラセ給ヘ天ニアガラセ給ばんジカナエ太まへ御
おや天主の御右ニそなわらせ給それよりいきタル人シシタル
人ただシタマわんガタメニアマクダラセ給ヘテすべるトサン
トモカトリカねテマシマストコロニサンタエキレンジャノ三
トヲすもみに御とをりようましてトガの御ユルシヲニク
シンニヨミガエシ給コトヲワリナキ御イノチヲマコトニシン
ジ奉アメンゼズ

○ケレンド使徒信經

T₆₅
(99)

(九) カナシミアガリニツトム。エコーニモクワエル。イ24
キ生レノベヤトサダメニモツトム。

ばんじかないたま、天地をつくらせたもふ、おんおやで
うすの、そのおんひとり子、われらの、おんあるじゼズスキ
リストを、まことにしんじたてま。スピリトサントノごき

とくにてやどらせたまい、びるぜんマリヤより生したまい、
 ホンジヨ、ピラトノ下^{シタ}において、かしやくをうけこらえ、十
 字架^{ルズ}にかけられ、死したまい、いしの、みかんに、おさめら
 れ、だいちのそとえ、くだらせたまい、それより三日^{さんにち}めに、
 よみがえらせたまい、てんにあがらせたまい、ばんじかない
 たもう、おんおやでうすの御右にそなわらせ、たまい、それ
 より生きたる人、死したる人を、ただしたまわんがために、
 あまくだらせたもふ、おんあるじを、まことに、しんじたて
 まつる。スピリットサントを、カトリカにてまします、サン
 タ、エキレンジャヲ、サントスノゴムニヨヲ、とがのおんゆ
 るしを、にくしんのよみがえりたもふことを、おわりなき、
 おんいのちを、まことに、しんじたてまつるアメン
 カナシミアガリニツトム、エコーニモクワエル、イキウマ
 レノベヤトサダメニモツトム。

TK₅
(100)

けれんど

7

万事かない給ひ天地世を造給ひ御親天主の御一人子にてま
 します如何に御主天主キリスト誠に信じ奉る、すべるとさん
 との御苦徳を以て宿らせ給ふびるぜんまるやより生れさせ
 給ひはんしやひらとが下に於ても可責を受けさせられ、クル
 スに懸り死に給ふ石の御棺に納められ大地の下に下らせ給

H₅
(101)

けれんど(口誦)

ふ、それより三日目に蘇生せ給ひ、天に昇らせ給ふ、万事か
 ない給ひ御親天主の御右に供せ給ふ是れより生きたる人死し
 たる人を探し給はんが為に天下らせ給ふすべるとさんとをカ
 とまします処さんたゑきれんじやのさんとすも身に御とうり
 よふまします罪の御許を肉身に蘇生せ給ふ事終りなきお命誠
 に信じ奉るあんめん

5

万事かないたもう天地をつくらせたもう、われらのおんお
 やジェズウスはこのおん一人子まことに信したてまつる。ス
 ピリットサントのごきとくをもち、やどらせたもう、ビリゼ
 ンマリヤより生れさせたもう、ボンタビレンチかせくろうク
 ルスにかかり死したまい。いしのみかんにおさめられながら
 大地のそこに下らせたもう。三日目によみがえらせたもう。

天にのぼらせたもう。ばんじかないたもう御親さまのおんみ
 ぎにそなわられたもう、それより生きたる人、死したる人た
 だしたまわんがために、天くだらせたまいて、サンタエケレ
 ンジャのサントスにごとうりやうなされたもうときに、とが
 のおんゆるしをにくしんによみかえらせたもう、まことにし
 んしたてまつるアメン
 ジェズウス

座ジメ

デウス・バーテル・デウス・ヒリヨ、デウススピリサント
の御名のもとに、アーメンジェズウス。

Ta₁₄
(102)

けれどものうらっしょ

御悲しみあがりのウラツシヨ

14

ばんしかなない給ふ天地を造らせ給いて御親デウスの、其の
御一人子^{シトリ}スベリトーサントの御きろくを、以って天の御主^{アルデ}を
宿らせ給ふ、ビリゼンマリヤより生れさせ給いて、こんちや
ひらどが下に於てはカシヤクを受け クロスにかかり死し給
ふ 石のみくわんにおさめられ乍ら大地なそこに下だらせ給
ふ 三日目にはよみがやらせ給いて天に上ら給ふ 御親デウ
ス様御右に定まらせ給ふ。生たる人、死したる人、御ただし
給わんがために天下らせ給いてスベリトサナーかたをりかね
て坐ませば、ドウマンのサントエキレジャのサントツにみな
とーりよしてトガの御ゆるしを肉身によみがやらせ給ふ御あ
んなき御命を真に信じ奉る ^{インデマコト} あんめテウス

S₁₄
(103)

けれどだ

天地はじまり(子取)

2

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

S₁₅
(104)

万事、かなひ、たもう、天地を、つくり、たてまつる、御^{おん}
親デウスの、御一人子^{おん}、まことに、しんじ、たてまつる。ス
ベリト、サントに、やどらせたまう、びりぜん、マルヤに、
うまれさせ、たもう、ぐんじが、ひらーとに、おいて、かし
やくを、うけこらい、くるすにかかり、死したもう。石のみ
くわんに、おさめられ、ながら、だいじな、そこに、くだら
せ、たもう。三日目には、よみがやり、天にあがらせたまう。
万事、かなひ、たもう、御親デウスの、御右に、そなわたりた
もう。それよりのち、いきたる人、死したる人、ただし、た
まはんが、ために、天下らせ、たもう。スベリト、サントに
とうりかねて、ましませば、さんたえきれんじやの、さんと
すに、みな、とうりよう、したもう。そのとき、とがの、お
んゆるしを、みでたう、よみがやって、おはりなく、命を、
まことに、しんじ、たてまつる。あんめん、ぜすす。

こんちりさん

第四、デウスに立帰り奉る罪人の申上ぐべき、コンチリさ
んのおらっしょの事

万事かなひたもう、さても御身様は、始め終りにて、まし
ませば、デウス様の御前に、はかい、むざんな、みとして、
計り出づべきくりき、無きとは申せ共計りなき御ぜひに頼み

15

を掛け奉る。しゃはくの、つなに、からめられ、ながら、只今御前に、てし奉る。さても御身は、始め終りにて、ましませば、うへん、こうだいなる、御あるじに、きはまつたり。御善徳の源様にて、ましませば、我等に、あたひ、被下しき、あつき御恩は、かつかつ誠に、さいきに、なければ、万事に、こいて深く御大切に、存じ奉る、しこそ、本儀なる可きして、さは無くして、かいて、他の罪科の甚も趣きしかも、数限りなき、言上し奉る。然ると雖も、御せひに、我が科よりも御子ゼズキリシタンを流したもう、御血のごきどくは、我が罪よりも、尚ほこうだいに、ましますと、わけまい奉る。然る時の、御みちぎの御言葉にて、罪人の我が科、再びくやまにおいて何時にても御ゆるし、たまはんとの御やくそく、今思召し入せたまへば、我に罪科を、ゆるし、たまひて、すぎし科、今心のそこより、くやみ悲しみ奉る。言上し奉る事、是あながち、ごしょうにおくべし、くけんにおそれての事にまわらずと、わけまい奉る。只ひとよの御大切に、もようされ、ごゑこ、御善徳に、はかりましますば、御身も、そむき奉る。しこそ、かなしゅう申す、もんならば、我がしんだいを、あらためし持たる科を、かして、再びごないしゅうをそむく事、ありましき、かたく、を思い定めたまへば、今はあわれみの、御まのじり、罪人なるわれらに、めぐらせたまう。我が科のはかりとして、ごばっせきに、計りなき、ごきとくを、ささげ奉る。

る。

之によつて我にごくわんけーを、ゆるしたまひて、ぜすすを、ながしたもう、御血のごきとくは、御身の御深く、御あわれみに、御頼み上奉る。おかせし科の、おゆるしを、こい奉る。此のごせしよの、御取次ぎには、御母さんた、まりやさんに、御頼み上げ奉る。御とりやはせは、よくこしのせ、いらせたまへば、我にごくわんけーを、ゆるしたまひて、われその、くりきに、及ばざるして御こ一言再び召しくわいられ、たまいやと、つつしんで御頼み上奉る。

あんめん、ぜすす。

T⁶⁶
(105)

こんちりさん。第四、^{デウス}天主ニ、タチカエリ奉ル、ザイニン²⁶ノ申上グベキ、コンチリサンノ、オラッシヨノ事

ばんじかない、たまふ、はじめ、おわり、まします、でうすの、おんまえに、はかい、むさんの、みとして、まかり、いづべき、くりきなきとは、いえども、はかりなき、おんじひに、たのみを、かけ、しよあくの、つなに、からめ、られながら、ただいま、おんまえに、いで、たてまつるなり、さても、おんみさまは、はぢめ、おわりなき、むへん、こうだいのおんあるじに、きわまり、なき、ごせん、とくの、みなもとにて、ましまし、われらに、あたえ、くだされし、あつ

き、ごおんの、かずかず、まことに、さいげん、なければ、
 ばんじに、こえて、ふかく、ごたいせつに、ぞんじ、たてま
 つる、ことこそ、ほんいなるべきに、さわなくして、かゝつ
 て、ざいくわの、いろしなを、つくして、そむき、たてまつ
 る、わがみなれば、いまさら、そのごしゃめん、こうむり、
 たてまつるべき、みには、あらずと、わきまゑたてまつるな
 り、われ、かつて、おかせし、とがをも、ちんじたてまつら
 ず、ただ、ざいくわの、はなはだ、おもく、しかも、かずか
 ぎりもなき、ことを、はくじょうし、たてまつるなり、しか
 ると、いえども、おんじひは、わが、くがよりもふかく、御
 子ゼズスクリシトの、ながし、たもふ、おんちの、ごきとく
 は、わがつみよりも、なを、こうだいに、ましますと、わき
 まゑ、たてまつるなり。しかるとき、おんあるじ、ぢきの、
 おんことばに、ざいにん、わがとがを、くやみ、かなしみ、
 たてまつるに、おいては、なんどきも、ゆるし、たまわんと
 の、おんやくそく、なれば、いま、おぼしめし、いだし、た
 まいて、われに、ざいくわを、ゆるし、たまへ、すぎし、と
 がを、いま、こころの、そこより、ふかく、くやみ、かなし
 み、たてまつるなり、かく、ごんじょうしたてまつること、
 あながち、ごぢやうにて、うくべきくげんを、おそれてのこ
 とにも、あらずと、わけまゑ、たてまつるなり、ただひとえ
 に、ごたいせつに、もようされ、ごいこう、ごせんとかくを、
 はかり、ましますまゑ、おんみを、そむき、たてまつりしこと

T₆₇
 (106)

を、かなしみ、もうす、ものなり、しかれど、ざいにん、い
 まより、わがしんたいを、あらため、ふたたび、もるたると
 がを、おかして、かつて、ゼズスの、ごないしやうを、そむ
 き、たてまつる、ことあるまじくと、かたくおもひ、さだめ、
 もうすものなり、しかれば、いま、おんあわれみの、おんま
 なじりを、ざいにんなる、われらに、めぐらせたまひ、わが、
 とがの、かわりとして、ごばっしよに、はかりなき、ごきと
 くを、ささげたてまつれば、これを、もつて、われに、ごか
 んきを、ゆるしたまえ、ゼズスの、ながしたもふ、おんちの、
 ごきとくと、おんみの、ふかき、おんあわれみに、たのみを
 かけ、おかせし、とがの、おんゆるしをこい、たてまつるな
 り、また、この、そしやうの、おんとりつぎには、おんはは、
 サンタマリヤさまを、たのみ、たてまつれば、その、おんと
 り、あわせを、ゼズスさまも、きこしめし、いりたまいて、
 これをもつて、われに、ごかんきを、ゆるしたまえ、われ、
 この、くりきには、およばざれども、御子、いちぶんに、ふ
 たたび、めしくわえたまゑと、つつしんで、たのみ、あげた
 てまつる アメン

コレハ、コツクワイニモ、グワンキニモ、エコーニモツカ
 イマス。ノベノ、オクリニハ、七ヘン、イフ。

コンチリサン
 ○告白ノ祈り、コンチリサンニ、ニヘンガエシ、トガノオ71

レイヲ、クワエテ男ニツトム。

T₆₈
(107)

○コンチリサンニ、サルベレジナラクワエテ。女ニツトム。72

T₆₉
(108)

告白の祈り

○ごくうけには、コンヂリサン、十二ヘン、とがのおんれい、にへんがえしを、くわえる。男。

コンヂリサン十二ヘン サルベレジナラクわえる。女。

おんれいに五十三ペン、ガラッサを、いふとき、テンニマシマス五ヘン、くわえます。三十三ペン、申上げるときは、三ペンガラッサを、十ペンいふときは、テンニマシマスを一ペン、かずとりに、いれます。

Ta₁₅
(109)

コンヂリサンのウラッシヨ

だいしデウスに立ちかへり奉る 罪人なる申し上げ可きコンヂリサンのうらしよの事 ばんしかない給ふ はじめ おわりましてさんデウス様の御前にて はかりまさんの身とし

てはかりいつ可きくりきなきとは云へど はかなき御せひに頼みをかけ奉る。諸はくのつなにからめられ乍ら、只今御前にて奉るさても御身様はむへんこう大の御主にきわまるなり、ごせん六のみなもと様にて坐ます 我れにあたへ下被れしあつし御恩の数々まことに大言なければんじこへて深く御大切に存じ奉る ベツこそこそ ほんぎ ある者べし しくなくしてかいてさいぐわのつみとがゆるし名もつくしそむき奉る。我が身なら今さうさに御しや免^{メン}ごうもり奉る、可き身にあらざとわき前へ奉る。只さいぐわなはなはだおもく しかも且つかぎり無し事はくじよし奉る しかると云へどきりしとうをながし給ふ御血の御きろくを我がつみよりも名をコーダイにましませば しかる時 御主ちはぢきな御言葉だいねん我とがくやまに於も何時にてもゆるし給わんとこの御約束今思し召し いざり給へば すぎしとがの心のそこより深く悔み悲しみ奉る 深くこんじよ致す事 あながちごしよにおくべしとくげんにおそれにもあらざとわけまい奉る 只一重の御大切にもよーされごいくし御前ろくと はかりましませば御親そむき奉る しこ悲しみ申す者なり 今より我れ身代をあらため二度もつたるとがをかすてゼズスの御ないしよにそむき奉ること アリマ しくとかたく思い定め申す者なり 御身に我れ身の頼みをかけ奉る 我れ 此のくりきにおよばされば 御子一分に二度召しくわへられ下 被れ申

す様につつしんで頼み上奉る アーメン

T₇₀
(110)

(十三) 。ニヘンガエシ。トガノオレイ、コンピサン、コ29
レワ、男ノコンピサンニツトム。

コンチリサンニ、コレヲ、クワエテツトム。

ばんじかないたもふ、どうすを、はじめ、たてまつり、い
つもびるぜんなる、サンタマリヤ、サンミゲル、アルカンジ
ヨ、サンジワン、ハブチスタ、たつとき、アボーストロ、サ
ンペートロ、サンパウロ、サンフラン・シスコ、もろもろの、
ベアヤトス、また、おんみ、パアテルに、とがを、あらわし
たてまつる、こころ、ことは、しわざをもって、おうくの
とがを、おかせしこと、これわがあやまちなり、これわがあや
まちなり、これわがふかき、あやまちなり、これによって、
いつも、びるぜんなる、サンタマリヤ、サンミゲル、アルカ
ンジヨ、サンジワンハブチスタ、たつときアボーストロ、サ
ンペートロ、サンパウロ、サンフラン・シスコ、もろもろの
ベアトス、また、おんみ、パアテルをたのみて、おんあるじ
の御まえに、われらの、おんとりつぎをなし、くださるよう
に、つつしんでたのみあげたてまつる、アメン
コレワ、ヲトコノコンピサンニ、ツトム。コンチリサンニ、
コレラクワエテ、ツトム。

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

H₆
(111)

「二へんがえしの」ウラシヨ、(口誦)
科送りのウラシヨ

万事かないたもうおみさまをはじめとして、いつもびるぜ
んのサンタマリヤさま、サンミゲリヤス、アルカンジヨ、た
つときアボストロ、サンペイトロ、サンパウロ、サンフラン
・セスコもろもろのベヤトベヤトまたおんパーテルのこの
ことばをしわざをもって、とがをあらわせたてまつる。多く
のとがをふかしあるごとくこれあやまりなり、これあやまり
なり、これわがふかくあやまりなり、これをもっておんはは
サンタマルヤ様、サンミゲリヤス、アルカンジヨ、たつとき
アボーストロ、サンペイトロ、サンパウロ、サンフラン、シ
スコもろもろのベヤートベヤートまたおんパーテルのこの
言葉をしわざをもってとがをあらわせたてまつる、多くの
とがをふかしあるごとく、これあやまりなり、これあやまり
なり、これわがあやまりなり、これをもってたのみあげたて
まつる、これおんなんわがつみをゆるしたまえあーめんじえず
うず

S₁₆
(112)

二へんかへし

『いつも、びりぜん、さんたマルヤ様、さんみぎいり、あ

三二一

るかんしょ、たつときあほうすところ、さんペートル、さんフランジ、もうもろの、ペヤーとろ、御身おんみばーてるに、とがを、あらはせ奉るたてまつ。心ことばの、すーわざを以てもつ、多くなとがを、おかしあること、これわがあやまり、これわがあやまり』

これわがふかきあやまりなり。

これを以て、おんたのみ上げ、たてまつる。あんめんせず。

Ta₁₆
(113)

二へんかへしのうらしよ

ばんじかない 給ふいつもビリゼンのサンタマルヤサンミ
ゲーリー アリカンデヨ サンデワンバーチー タットキア
ーボールトー サンペートル サンパオル サンフランセス
コ様 者者のベヤートベヤート御身バーテルのトガヲあらわ
せ給ふ この言葉のしわざを以て多くなるとがをうかし
した事はくじよし奉る 此れやまんなり 此れわやまんなり
此れ深くやまんなり 此れによっていつもビリゼン、サンタ
マルヤ サンミゲリー、アリカンデヨ サンデワンバーチー
タットキアボールトー サンペートル サンパオル サンフ
ランセスコ様 者者のベヤートベヤート御身バーテルのトガ
ヲあらわせ給ふ この言葉のしわざを以て多くなルトガ
をうかした事はくじよし奉る 此れやまん 此れわやま

18

T₁₁₄
(114)

んなり此れ我が深くわやまんなり御主我がためにささげ奉る
あーめん

(二十一)。^ユタマグレノ祈り、コレワ、ヒグレニ、三ベ
ンモーセバ、ソノ日ノトガワ、ユルサルトノコトデアリ
マス。

ばんじかないもふ。おんみさまを、はぢめとして、いつ
もびるぜん、サンタマリヤ、サンガブリエル、アルカンジヨ、
おんつうげあるとき、おんよろこびのために、アベマルヤを、
三べん、もうし、みぎの一べんは、デウス、パアテルさま
に、ささげたてまつる。われ、こんやの、よに、ふりよのわ
ざわい、とんし、とんびようせざる、ように、おんはからい
を、たのみあげたてまつる。つぎの一べんは、^{おんこ}御子、ヒリヨ
さまに、ささげ、たてまつる、われさいごに、およびし、と
き、あわれみ、たまえと、たのみあげ、たてまつる、三番目
の一べんは、スピリトサント、さまに、ささげ、たてまつ
る、われししてのち、ごきうめいに、おつるとき、インベル
ノの、くわへんを、のがらせ、たまえば、ふるかとりやの、
ごにんずに、めしくわえ、たまえと、つつしんで、たのみあ
げたてまつる。アメン

37

H₇
(115)

夕まぐれ(口誦)

7

万事かないたもうおんみさまをはじめといつもびるせん
 サンタマリヤさまおんあるじイエズスごたいないをからせた
 もう、サンガブリエルにアルカンジヨおんつうげあるときお
 んよろこび アベマルヤ三べん申し上げたてまつる、みぎの
 一べんはデウスパーテルさまにささげたてまつる、われこん
 やのよういでのわざわい、とんし、とんびようせざるよう
 に、おんはからいをたのみあげたてまつる。つぎの一べんは
 御子ヒーリヨさまにささげたてまつる。われさいごにおよび
 しときあわれみたまえたのみあげたてまつる。三番目の一
 べんはスベリットサントウスさまにささげたてまつる。われ
 ししてのち、ごきゆうのめいにおおうるときインヘルノの
 くわようをまぬからせたもう ふるかとりやのごにんずのう
 ちにめしくわえさせたもうようにつつしんでたのみあげたて
 まつる アンメンジェズウス

T₇₂
(116)

(十四) ○サルベレジナ。アワレミトモイフ。

コレワ、コンチリサンニクワエテ女ノコンピサン

30

あわれみの御母、^{オンヘ}こうひにてましますおんみに、おんれい
 をなしたてまつる流人なるエワノ子供、おんみえさけびをな

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

Ta₁₇
(117)

サルベデナのウラシヨ

し、また、このなみだのたにてうめき、なきて、おんみに、
 ねがいを、かけたてまつる。これによって、われらが、おん
 とりなして、にてまします、サンタマリヤ、あわれみの、お
 んまなこそ、われらの、みに、めぐらせ、たまえ、またこの
 流浪の、のちは、ごたいないの、たつとき、みにて、おわし
 ます、ゼズスを、われらに、みせたまえ、ふかき、ごにうな
 ん、ふかき、ごあいれん、すぐれて、あまく、おわします、
 びるせん、マリヤかな、でうすのたつとき、おんはは、われ
 ら、キリシタンとの、おんやくそくをうけたてまつる、みと
 なるように、つつしんで、たのみあげたてまつる、アメン
 コレハ、コンチリサンニ、クワエテ女のコンピサン

ばんしかない給ふあわれみの御母こーひにてまします御身
 御礼おなじ給いて餘人となりエハの子共が、御身にさけびを
 なし給いて此の涙のたちにておめき泣きして御身にねがいを
 上げ奉る深く御りよ深く御愛でんすぐれたるあまこあまこ坐
 ますピリゼンマルヤからデウスはたとき御母切支丹御約束
 を受け奉る身となる申す様につつしんで頼み上げ奉るあめん
 デズス

16

H₈
(118)

十七ヶ条(口誦)

8

おんみどりうらい千六百三年慶長八年四月下旬につくりいだすこんちりさんのじゃく、人の上のだいじのなかの一大事というはありまのたすかりということなし。これによつて一さいの人間をおんたすけていぢましますおんみぜズスのごきんぎをいかに人べん界をたな心にぎるといふとも、その身のアリマは失えばなんのえきぞこのたまひ、またアリマのたすかりいかなる財宝をもなにがへんえとげたまえ、さればこのアリマのたすかりの為にすぐれたつとめというはこんじりさんとしてしんじつのふかく後悔あすかるが故にこのセツト様のことをころざしてしるすものなり。一つにはこのかくごいづれのキリシタンの為になるといふともべつしてこんびさんをきかるべし。パーテルのなきところにとがにおちたるキリシタンこのしょうにあきらめおしえる如くつとめば、そのともゆるされ、ジェズスのガラッサをこうむりたてまつる。ついに天のけらくをうけたてまつるべきみちをしらせんためなり。二つにはいづれの道にて死するにおいては人のさいごのすすめをなすべしと。このしよをよみきかするかまたはこのおもむきをかたすかするかは人のアリマにみつिकाせんためなり。これべつしてこえそうるなきところにてすぐれたる務なり。ここにこころうべきことあり。死するに近き人いまだそのひまあらば、この一かんをことごとくしめすべし。も

しはやとききわまりひまなきにおいては、はじめの一ヶ條の中第三、第四の心得と第二ヶ條第四ヶ條のことわりをよみきかするべし。ただしまたこれもあいかなわんほどの病者ならばせめては第四ヶ條目のするところのウラシヨをすすむべし。もしその人口ごもり、このウラシヨを申すこともかなわんにおいては、心のうちにもかくととなえよとのすすむべし。かくの如くさいご近きもののアリマに力をそい、すすめなすことジェズスの御前にて、その功德しんじ無量なり。それをいかにというはこれらのしよさいぜズス人のアリマをたすけたもうみちの舟な橋となることなりアンメンジェズス

T₇₃
(119)

科送り、男、三十三ベン、女、六十六ベン、一週記迄。

39

一日ノウチニ、ツクリシ、ツミラ、パンニ、ツグナイヲ
スル。

天にまします、すぐや天主デウスの、おんまえに、とがおり、はたさんとのこと、こんたを、とりあげ天に、むかつて、手を、あわせ、天主にとがの、おんゆるしを、こい、たてまつる。あくしんのとが、にくしんのとが、いつわりのとが、よくしんのとが、まんきのとが、こうまんのとが、おれいしなるとが、たんゆうのとが、いれれちやのとが、よいいちやのとが、あつまいのとが、みとが、きつとが、すいりやうの

とが、日に千七十七たびのとが、とがゆえ、このしやば、は
がと、くれのやみになされる、はずの、みなれども、それに、
よってよゝに、こんびさんを、もうし、とん死、ふちようの
やまい、つきたるとも、天主どうすの、みことばをもつて、グロリ
ヤを、もうしあげ、天主さま、あきらかに、おがみ、たのみ
たてまつる、アメン

S₁₇
(120)
第十七ヶ條の切り

第一の、かんずべき事と、言うは、ぜずうすの御上なり。
此君計り無き、ごゑこう、御力ら、かぎりなき御知ゑ、御ぜ
ひ、ごあいれんのみなもとにて、てーをーの中の、てーをー、
しくんの中のじゅつくわん、天地のごさくさ、今上御しこんでよう
の、御はからいにて、ましますと言う事、又此愿なし、かぎ
り無き御知ゑを以て、万事を治め、はからひたまへ。もろも
ろの、もろの、大もろものぜんろく、もろもろの、うつく
しきの源様にて、ましませば、よろづ、ごさくのものに、こ
めはいしられ、つかさ上うえ、思はれたもつべき、万事は、おほ
しめし、まゝにしたがひ、たもつべき、たつとき君にて、ま
します。くわんずべき、是に引かいて、もりたる科とがと言うは、
ぜずうすに、ごないしやうをそむき奉る、ぎやく心が、おき
てをやぶり、りゆうかなれば、ぜずうすに、たいし奉るらう

12

ぜきなるが故に、其科そのとがを又計りなき、心のそこより、にくみ
きはらずして、かなはん事なりと、くわんずべき、心を以て、
計るに、かほど公上コウジョウのぜずうすを、つたなきつみを以て、そ
むき奉りし所の、いか程いかにいかなしみ、心のそこより、后こうか
いし、再びそむき奉ることとは、かんよう、なりやと、いえど
も、よくわけまいよ、又この御あるじ、御じひ、かぎりまし
まさねば、人のありまをたつかるに、こいて、べつに、のぞ
み、たもうことを、ましませば、かほどごないしやうを、
奉らん者は、われなりと、いえども、御大切にむゆうされ、
じごんいご以後いごぜつびようくゐ、しんだいを、あらたむるべしと、
存じ立つ、たんできに、もろもろのつみ科をゆるし、たまひ
て、ごちやうばいの、こにいじにめしくわい、られんと、い
つも、もちーたもう者なり。然れ共人のぜずうすに、つかま
つり、かけ奉る一つのろうぜきと言うは、我が科をゆるし、
たのもしくと言う、たのもしく、心をうしなはせんと、する
ものなり。又このかんねんを、さきとして、左に記すべし。
堪忍にもぜずうすの、御あわれみ深く、まします所を、目前
におきて、こんちりさんを出すに、おいては、科をゆるし、
たまひて、ありまを、たすけ、たまはんと、されば此の深
く、たのもしく、思う心は、平生へいぜいにも、かんよう、なりや
と、いへども、とりわけ、さいごにのぞんで、かんようなり。
其の上てんぐ天狗の、たばかりは、ぞんめーの間、ぜずうすの、御

ぜひを、しんし、たのまして、科を進めし如く、一ぞく、せ
ったんのにぎり、深くめーづる御ぜひを、いかにもあさく思
はして、たのもしく心を、うしなはせんとするものなり。

あんめん、ぜずす

Ta₁₈
(121)

天に坐マシます我等御親 みなをたつとまい奉る 天に於ても4
おぼしめしままなる如地に於はあらせ給ふ 今日我等にあた
へたもう日日の御んやしない 今日より悪くをのがらせ下さ
れ あんめーデウス

Ta₁₉
(122)

天に坐マシます我等の御親 みをたつとまる給イテ身ミ国クニをきた7
らせ給ふ 天に於は思し召しままなる如く地に於てはあらせ
給ふ 日々の御やしない今日我等にあたへ給ふ 我人のとが
も許すと我がとがも御許し下被れ申す様我れ天とうに話し
申す如事今日惡をのがらせ下被れ申す様に あんめデウス

T₇₄
(123)

(五)。

天ニマシマス、主禱文 コレワ天ノカミノイリデスカ
ラ、天ノカミニタノムトキワナンデモ、ハツヲアゲ、

20

T₇₅
(124)

(二十一) 。バアテル、ノーステル、コレワ、エコーニモ、
クワエル。

ケーレーレンソ、キツテレンソ、パーテルノーテルキンソ、
イーセ、サーツーシツノメーツ、イヤオラザシツラアンノ、
センツクイーセ、タバシマンノ、クレーンノーツル、コーツ
ル、エノダモリソーレレンツ、チミターホソシヤノ、サンマ
ルゾ。アメン、コレワ、エコーニモ、クワエル。

ハツヲヒラキ、ムラカタグワンニモ、

天にまします、我等の御親、みなを、たつとばせ給え、み
くにをきたらせ給え、天においておぼしめす、まゝなる如く
地においても、あらせ給え、にちにち、のおんやしないを、
今日我等に、あたえ給え我等が人に許す如く、我等のとも、
許し給え、我等を天たさんに、はなちたもうことなかれ、我
等を、けふあくよりのがし給え アメン

コレハ、天ノカミノ、イノリデスカラ、ナンモカモ、天ノ
カミニタノムコトワコレワ、ツカイマス、ハツヲアゲ、ハツ
ヲヒラキ、アマゴイ、ムラカタグワン、アミノグワンキ。

Tk₇
(125)

天にまします吾等の御親、身にきており給え、天に於ては6
思召し、儘なるが如く地に於てもあらせ給ふ、吾等日々のお
ん養ひ、今日吾等に與え給ふ、吾等人を許し申す事天他に話
し申す事なかれ今日より惡を逃らせ給ふ

T₇₆
(126)

ガラスサミチノ、マリヤノ祈り

(六)。

がらすさ、みちノ、たもうまりやの、御身に、御れをな
し奉る、おんあるじは、おんみと、ともにまします、女人の
中においてわけて、ごくわほう、いみしきなり、

また御たいないの御身にてましますゼズスは、たつとくま
します。天帝の御母、サンタマリヤ、いまでも、われが、さい
ごにも、我等惡人のためにたのみ、給え、アメン
コレハ、オンレイ、オハツヲサゲ、シンニンモ

H₉
(127)

がらつさみち(口誦) (アベマリヤ日本文)

みちがらつさみちみちたもうマリヤおんみにおんれいをな
したてまつる。おんあるじおんみとともにましますよにんの
なかもおいてもうけてもごはくうよみすけない またごたい
ないのジェズスの御母サンタマリヤさまいまわれらのさいご

長崎県黒崎に於けるキリシタンのオラシヨ

21

のとき、あくにんなれどもつつしんでたのみ上げたてまつる、
アメンジェズス

Ta₂₀
(128)

カラツサミチミチノウラツシヨ

カラツサみちみち給ふ マルヤ御身御礼申御同じも、わけ
てもゴハクよみしきない又御たい内のデウスは太つときにて
マシ
坐ますデウスの御母サンタマルヤ様我等がさいごの時は惡人
なれ共つつしんで頼み上げ奉ル アンメ デウス

Ta₂₁
(129)

カラツサミチミチノウラツシヨ

カラツサみちみち給ふ マルヤ御身御礼申(御同じ)奉る。
御主は御身と共に坐ます四人の仲はおいても、わけても、ゴ
ハクよみしきない 又御たい内のデウスは太つときにて坐ま
マシ
すデウスの御母サンタマルヤ様我等がさいごの時は惡人なれ
共つつしんで頼み上げ奉ルアンメデウス

S₁₈
(130)

けーれーれんそー (門開き)

ケーレー、レンソー、ケーレー、レンソー、クリステ、レ17
ンソー、バーテンノ、ツル、キンセー、インセー、サンツ、
ノーマンツ、アイレンニヤー、デンデンデブロー、ダーク
ワー、ノーツルコーツル、エノモートノ、オーソーレー、デ
ウロー、デンタンニヤー、オーソーシー、コーエンニヤー、
デンデンデブロー、モーツレ、インネン、ニヤ、シーヅ、
カー、インター、タージョーニヤーゼズス、マリヤ、アンメ
ンゼズス

何のおはつをを、上げます。しごの、ごあんじょ方、さん18
とり様のおとりつぎを以て、どうす、ごさんもん様に、おん
ささげ奉る。其おのこりを、何のだれ殿に、おさげ被下す
ように、御頼み上奉る。

男サンノ 何のだれのために私少しのおらつしよ、しご19
のごあんじょがた、さんとりさまのお取次を
女サンタ 以って、デウスごさんも様にささげ奉る。

T²⁷
(181)
ハカマイリノセツ

みはかまいりの、ひぢまじく、わがべんてんの、となゑ
を、もつて、アメン

T²⁸
(182)
ハナシバラカエルセツ

三べんいふてみつをあげなさい、あとで、エコー

さんしゅ、おうやま、さかきと、さしたてまつる、みうん
の、ていおうさまに、そなえ、たてまつる。あなたの、くり
きのくわんねん、こんびの、ひかりをもって、どうぞ、おひ
ろめ、くださるやうに、ひとえに、ねがい、たてまつる。

註1 P. A. Sorokin, social cultural dynamics.

註2 この場合仏教は他宗教集団ではない。カトリックが他宗
教集団として感じられている。

註3 クリシタン研究第二輯九一頁―百四八頁

註4 哲学年報26輯、27輯、「集団カトリック研究の一資料」
及び「黒崎地域のクリシタン・カトリックの研究」

註5 Freud 日常生活に於ける精神病理

註6 MMPI 日本版一九六三を使用す。今後の比較を可能に
することを考えている。

註7 P. F. test 日本版を使用す。今後の比較を可能にす
ることを考えている。

(未完)